

二之宮八王子古墳

個人住宅付属物置建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



二之宮八王子古墳出土大刀

2022.3

前橋市教育委員会



古墳周辺の様子（上が北）

巻頭図版 2



石室全景（南東から）



石室全景（南西から）



石室全景（北東から）

巻頭図版 4



玄室奥壁全景（南西から）



玄門全景（北東から）



玄室奥壁全景（砂礫除却後・南西から）



玄門全景（砂礫除却後・北東から）

巻頭図版 6



石室右壁オルソ画像（南東から）



石室左壁オルソ画像（北西から）



石室オルソ画像（垂直）



遺物出土状況①（大刀No 1・南西から）



遺物出土状況②（大刀No 2・南東から）



遺物出土状況③（小刀・北西から）



遺物出土状況④（鐵鎌・南西から）



遺物出土状況⑤（刀子・東から）



遺物出土状況⑥（耳環・南から）

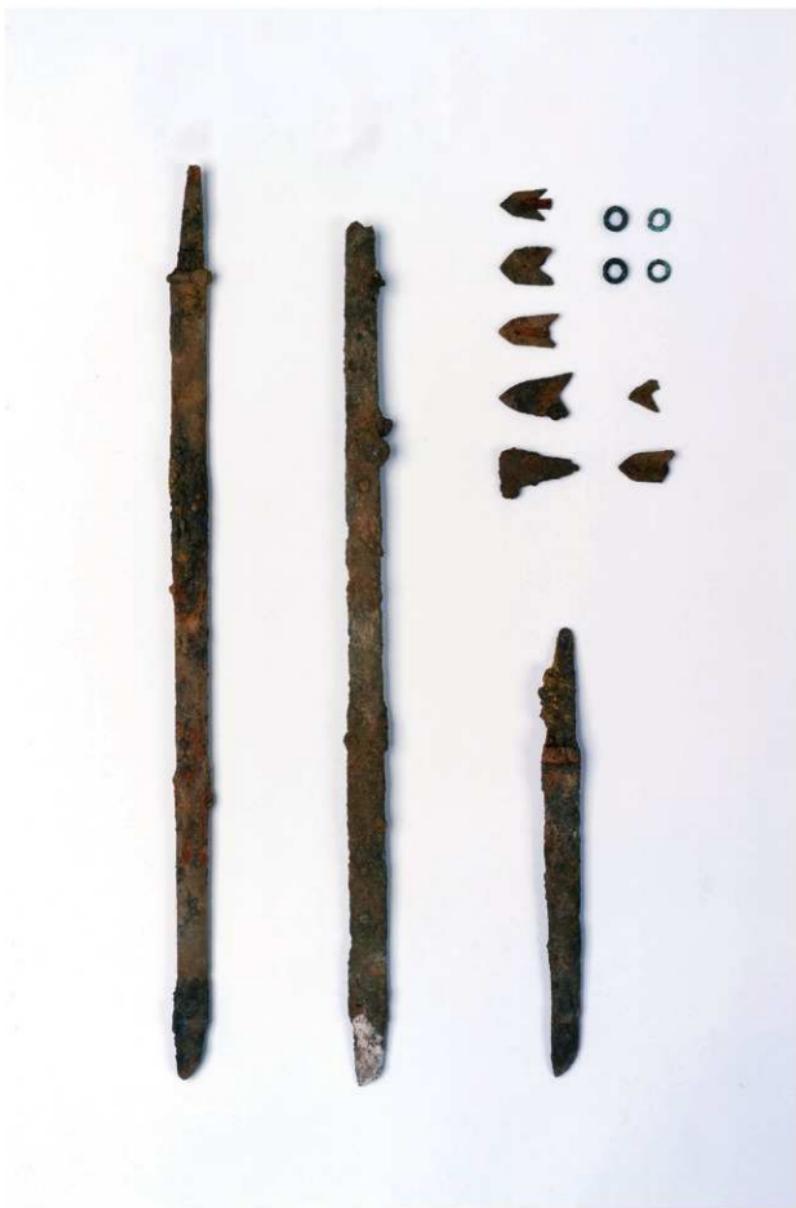


人骨出土状況（東から）



人骨出土状況（南から）

卷頭圖版 8



石室內出土遺物

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野國の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する二之宮八王子古墳は赤城山南麓の二之宮町に位置し、個人住宅の付属物置建築工事に伴う発掘調査です。調査の結果、6世紀に噴火した榛名山二ツ岳噴出の軽石を使用した両袖型横穴式石室をもつ円墳を確認することができました。また、石室からは大刀をはじめとする様々な副葬品が発見されました。本報告書は、それらの記録と考察をまとめたものであり、学術研究はもとより郷土の歴史を学ぶ資料として役立てていただけたら幸いです。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、地権者をはじめ関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。ここに心より感謝申し上げます。また、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和4年3月

前橋市教育委員会
教育長 吉川 真由美

例　　言

1 本報告書は、個人住宅付属物置建築に伴う「二之宮八王子古墳」（前橋市遺跡コード：29 E 51）の発掘調査報告書である。

2 調査は前橋市教育委員会（文化財保護課）が実施した。

3 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称　　二之宮八王子古墳

遺跡所在地　群馬県前橋市二之宮町 2545-1

調査担当　　神宮 晴《埋蔵文化財係長》 小島純一《専門員》

調査員　　岩丸辰久・小峰 篤・阿久澤智和・寺内勝彦・村越純子《埋蔵文化財係員》

発掘調査期間　平成 29 年 5 月 23 日～平成 29 年 11 月 28 日

調査面積　約 300m²

4 本書の原稿執筆・編集は神宮・寺内が行った。

5 本書に使用した出土遺物の実測・トレースは、峰岸あや子が行った。

6 人歯の分析は宮崎重雄氏に依頼した。

7 鉄製品の保存処理は、㈲武藏野文化財修復研究所・(公財)山梨文化財研究所に委託した。

8 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会事務局文化財保護課に保管されている。

9 発掘調査および本書の作成において、下記の諸氏、並びに機関から有益な御指導、ご協力賜りました。記して謝意を表します。(敬称略)

梅澤重昭・杉山秀宏・永井智教・能登 健・榛澤治久・前田和昭・前原 豊・右島和夫・アコン測量設計㈱・技研コンサル㈱

凡　　例

1 挿図中に使用した北は、座標北である。座標は世界測地系IX系である。

2 握図に国土地理院発行の 1：200,000 地形図（宇都宮、長野）、1：25,000 地形図（大胡）を使用した。

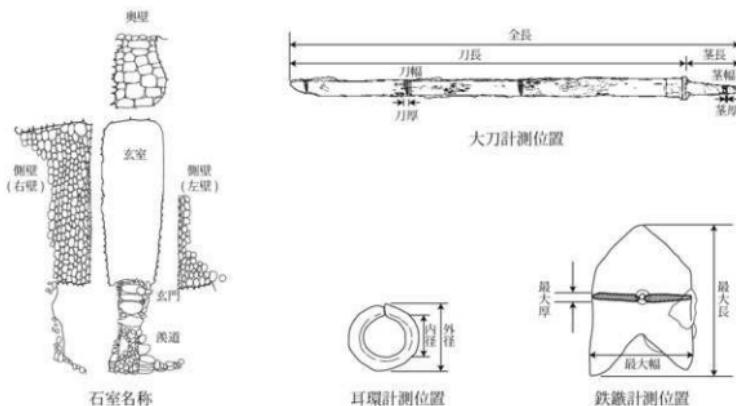
3 遺構・遺物の実測図の縮尺は、各図に明示している。

4 計測値については、() は現存値、[] は復元値を表す。

5 セクション注記と遺物観察表の色調については『新版 標準土色帖』(農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 2006) に拠った。

6 遺構平面図の ----- は推定線を表す。

7 古墳分布図については、群馬県古墳総覧 2017 を参照した。



目 次

はじめに

例言・凡例

目次

| | |
|-----------------|----|
| 第Ⅰ章 調査に至る経緯 | 1 |
| 第Ⅱ章 遺跡の立地と周辺の遺跡 | 2 |
| 第Ⅲ章 調査方針と経過 | 5 |
| 第Ⅳ章 古墳概要 | 6 |
| 第Ⅴ章 出土遺物 | 13 |
| 第Ⅵ章 まとめ | 21 |

写真図版

抄録

奥付

挿図目次

| | |
|------------------------------|----|
| Fig.1 遺跡位置図 | 1 |
| Fig.2 周辺の地形図 | 2 |
| Fig.3 周辺の古墳および古墳時代の遺跡図 | 4 |
| Fig.4 二之宮八王子古墳全体図 | 8 |
| Fig.5 墳丘土層断面図 | 9 |
| Fig.6 石室展開図 | 10 |
| Fig.7 石室エレベーション図 | 11 |
| Fig.8 天井石崩落状況・羨道部角閃石安山岩使用位置図 | 12 |
| Fig.9 角閃石安山岩実測図 | 12 |
| Fig.10 石室遺物出土状況図 | 14 |
| Fig.11 人骨・歯出土状況図 | 15 |
| Fig.12 金属製品実測図（1） | 17 |
| Fig.13 金属製品実測図（2） | 18 |
| Fig.14 金属製品実測図（3） | 19 |
| Fig.15 土器実測図 | 20 |
| Fig.16 二之宮八王子古墳と萩塚古墳の石室実測図 | 24 |

表目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| Tab.1 人齒観察表 | 15 |
| Tab.2 土器観察表 | 16 |
| Tab.3 金属製品観察表 | 16 |
| Tab.4 『上毛古墳綜覧』に掲載されている二之宮八王子所在の古墳 | 22 |
| Tab.5 角閃石安山岩使用古墳一覧 | 26 |

第Ⅰ章 調査に至る経緯

1 調査に至る経緯

平成 29 年 1 月、地権者から自宅の裏庭に存する古墳を削平し、住宅の付属物置用地として利用したいとの連絡が前橋市教育委員会事務局文化財保護課（以下「市教委」という。）にあった。市教委の担当職員が現地を確認したところ、一部削平されているものの比較的良好な状態で墳丘が残存していた。所在地番から「上毛古墳綜覧」（群馬県、1938 年）に記載がある「荒砥 291 号墳」であることが判明し、現状保存が望ましいとの観点から保存を前提に協議を進めた。しかし、地権者より工事が避けられないとの回答があったため、現状保存は困難と判断し、記録保存のための調査を実施することとした。

調査に先立ち平成 29 年 2 月 27 日付けで文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が提出され、市教委では同年 4 月 7 日付けで「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により発掘調査の実施を指導した。これに基づき 5 月 12 日付けで地権者より埋蔵文化財発掘調査依頼書が市教委に提出された。これを受けて市教委では直営で 5 月 23 日から発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「二之宮八王子古墳」（遺跡コード：29E51）の「二之宮」は町名、「八王子」は旧小字名から付したものである。

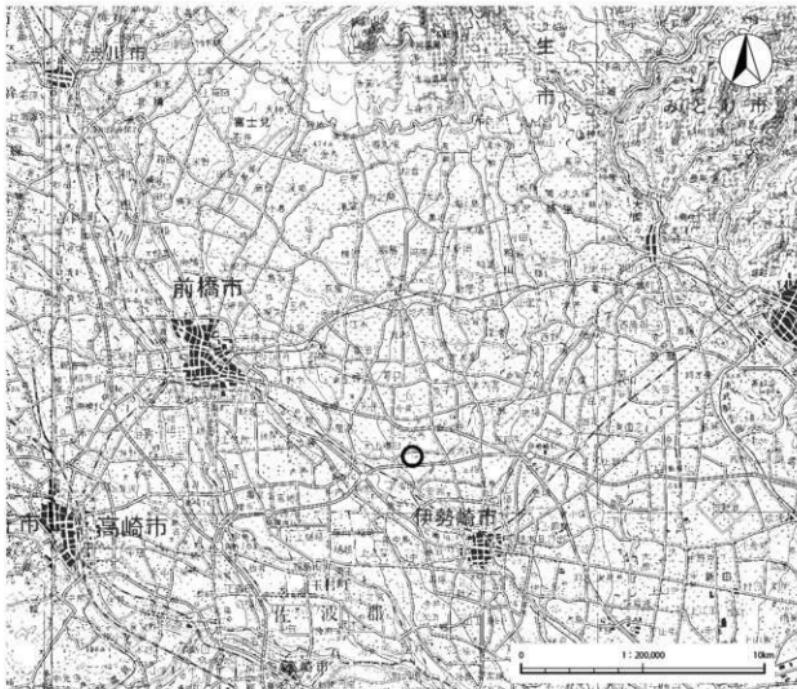


Fig. 1 遺跡位置図

第Ⅱ章 遺跡の立地と周辺の遺跡

1 遺跡の立地

本古墳は前橋市街地より南東に約 10km、市立二之宮小学校の南方約 700 m の場所に位置し、西側には広瀬川・荒砥川・宮川・八坂用水、東側には神沢川・粕川等多くの河川が南流している。

前橋市は、地質・地形の特徴から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の4つの地域に分けられ、本古墳は赤城火山斜面の末端に立地する。赤城火山斜面は、約40万年～20万年前に噴火活動を開始した赤城山の裾野を形成し関東ローム層により覆われている。赤城火山斜面南麓は、標高500m付近で山地帯から丘陵性の台地へ地形変換がみられ、標高200mより下では低台地化している。この低台地地域では、山腹から流れ出す中小河川の浸食や山麓端部からの湧水によって台地は樹枝状に開析され比高差は少ないが沖積地と入り組む複雑な地形が形成され、微高地上では集落、低地では水田が営まれている。

本古墳周辺は、昭和50年代の圃場整備事業や国道17号上武バイパス、北関東自動車道の建設に伴い広範囲に発掘調査が実施され開発が進んでいるが、いまだ水田や畠といった農地が広がる農村地帯となっている。

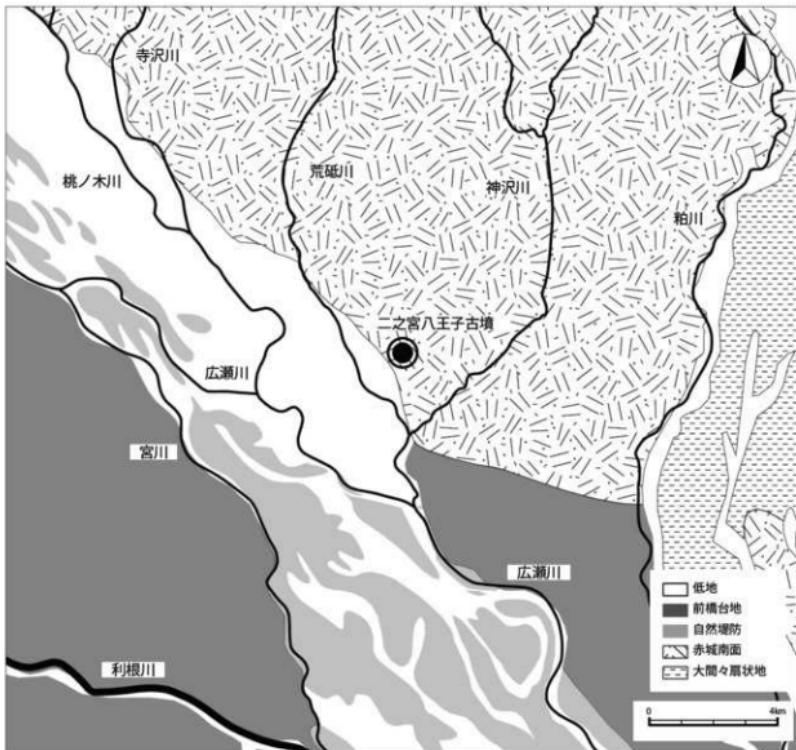


Fig. 2 周辺の地形図（群馬県地質図作成委員会「群馬県 10万分の1 地質図」（1999）に加筆）

2 周辺の遺跡

本古墳が位置する前橋市南東部の荒砥地区は、昭和50年代より圃場整備事業や上武国道・北関東自動車道の建設等に伴い数多くの発掘調査が実施してきた。発掘調査により旧石器時代から近世に至る数多くの遺跡が発見されており、古より居住地として良好な条件を有していたことが窺える地域である。

また、昭和10年に行なわれた県下一斎古墳調査により旧荒砥村では、前橋市域最多の365基（うち二之宮町では25基）の古墳が確認されている。さらに群馬県教育委員会が平成24年度から平成28年度までの5年間で実施した古墳総合調査においても数多くの記載漏れ古墳が確認され、県内でも有数の古墳の密集地域となっている。本節では、今回の報告対象が古墳のみであるため、周辺の古墳及び古墳時代の遺跡を中心に概観してみたい。

周辺の古墳としては、前橋市教育委員会が令和元年5月に発掘調査を実施した小島田八日市古墳(2)が4世紀初頭に造られた前期古墳としてあげられる。小島田八日市古墳は、墳丘の大部分が削平されて主体部は残っていないかったが、残存する墳丘基部下には浅間C軽石(As-C:3世紀後半から末降下)の堆積が確認され、降灰からそれ程間を置かない時期に造られていることが確認できた。なお、追葬主体部から小型の仿製鏡やガラス玉、鉄剣等が出土しており、この地域で初めて確認された前期古墳である。5世紀中頃になると長持形石棺を主体部とした全長125mのお富士山古墳(3)、5世紀後半に全長71mの今井神社古墳(4)といった大型の前方後円墳が造られるようになり、これらの古墳の被葬者が広瀬川低地帯周辺の開発を担ったものと考えられる。5世紀後半以降になると大室古墳群の前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳といった大型の前方後円墳が造られる一方、小円墳を中心とした群集墳が広瀬川などの河川流域沿いの微高地上に造られるようになる。荒砥宮川遺跡(6)や荒砥宮原遺跡(7)などで確認されている円墳や本古墳周辺に存する古墳もこれらの群集墳に組み込まれるものである。さらに終末期になると荒子杉山古墳(5)、荒砥富士山古墳などの截石切組積石室を採用した有力古墳が築造されるようになる。なお、荒砥荒子遺跡(8)や大室公園の南東にある梅木遺跡では、環濠と柵列によって囲まれた豪族居館跡が発見されており、周辺の古墳被葬者との関係が窺えるものとなっている。

また、周辺の古墳時代の遺跡としては、中原遺跡群(9)、今井白山遺跡(10)、萩原遺跡(11)、荒砥宮川遺跡、荒砥島原遺跡(12)等で検出されている集落が古墳時代の前期以降、中・後期まで継続して営まれていることが確認されている。後期以降になると集落は拡大し荒砥青柳II遺跡(13)、二之宮谷地遺跡(14)、二之宮宮下西遺跡(15)、二之宮宮下東遺跡(16)、荒砥天之宮遺跡(17)、荒砥洗橋遺跡(18)などの新たな地点にも営まれるようになる。

1. 二之宮八王子古墳
2. 小島田八日市古墳
3. お富士山古墳
4. 今井神社古墳
5. 荒子杉山古墳
6. 荒砥宮川遺跡
7. 荒砥宮原遺跡
8. 荒砥荒子遺跡
9. 中原遺跡群
10. 今井白山遺跡
11. 萩原遺跡
12. 荒砥島原遺跡
13. 荒砥青柳II遺跡
14. 二之宮谷地遺跡
15. 二之宮宮下西遺跡
16. 二之宮宮下東遺跡
17. 荒砥天之宮遺跡
18. 荒砥洗橋遺跡

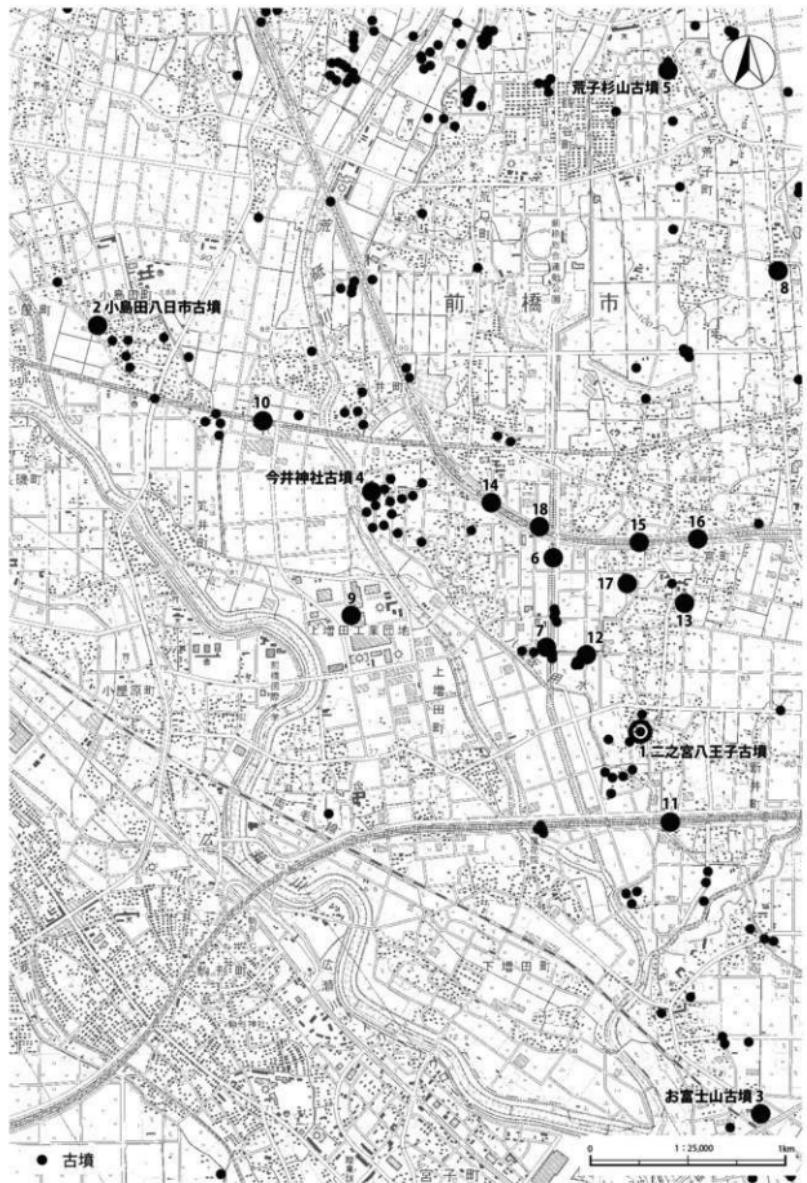


Fig. 3 周辺の古墳および古墳時代の遺跡図 (1/25,000) 群馬県古墳総覧 2017 参照

第Ⅲ章 調査方針と経過

1 調査方針

遺構の図化は、平面図はトータルステーションを用い、断面図は手実測により行った。遺構図面は平面図を1/40又は1/20縮尺、断面図を1/20縮尺で作成した。石室内部について、技研コンサル株式会社の協力により3次元測定器による計測を実施した。写真撮影は35mm白黒ネガ、35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを使用し、調査の進捗に合わせて随時実施した。調査終了後、調査成果の整理作業、報告書作成を行った。

2 調査経過

発掘調査は平成29年5月23日から同年11月28日にかけて実施した。当初予定されていなかった市教育委員会の直営による発掘調査であり、文化財保護課職員による断続的な調査となった。

〈5月23日～24日〉

調査範囲・廃土置場などを設定し、重機による掘削を行った。調査は古墳石室の検出を主目的とし、重機により石室があると推定される箇所にトレッセを入れ、石室位置の把握に努めた。重機掘削により崩落した天井石を確認したため、トレッセの再設定を行い、掘削範囲を拡大し石室上面全体を検出した。

〈5月29日～31日〉

石室内に崩落した壁石等を取り出しながら掘下げを行い、石室床面を検出した。

〈6月9・14・16・19日〉

石室床面精査。砂礫の中から人骨・直刀・鉄鎌・耳環等が出土したため、砂礫を土のう袋に入れ保管した。7月7・18～19日に篠にかけたところ耳環等が出土した。

〈6月26日〉

3次元測定器による石室計測を実施した。

〈7月7日〉

トータルステーションを用いた遺構測量を開始。墳丘セクション図や遺物分布図については、手実測により図化した。

〈9月4日〉

石室全景写真撮影。

〈11月27・28日〉

土地所有者と石室の埋め戻し及び墳丘の復旧工事について協議を行い、埋め戻しを実施。発掘調査終了。

3 保存整備

調査中に地権者より重要な古墳であるため物置の建築を取り止め、現状保存したいとの申し出があった。既に墳丘上面の断ち割りと石室（玄室）の掘り下げる一部実施していたが、急速漢道部の調査を取り止める等調査を必要最小限に留めるようにした。また、既に調査を進めていた玄室部については、必要な実測図などを作成後、取り出した壁石をすべて戻した後に山砂を充填した。最後に充填した山砂の上に天井石を戻し、掘削土を盛土し保護措置を行った。

第IV章 古墳概要

1 墳丘

本古墳の東側墳丘部は、從前物置用地として利用されていたためほぼ垂直に掘削されていた。また、北側墳丘部も隣接する畠との境界にネットフェンスが設置されており、フェンス設置の際に墳丘裾部が一部掘削されたものと考えられる。西側に延びる墳丘部は、地権者が異なるため立入・計測ができなかったが、目視する限り比較的良好に残存している。

墳形については、現況から円墳の可能性が高いと考えられる。墳丘の残存範囲は、南北 18.7 m（羨道部入口から隣地境界に設置してあるネットフェンスの範囲）、東西 17.5 m（東側の削平された部分から隣地境界の範囲）であるが、昭和 10 年に荒砥村役場で作成した『古墳基帳』には径 40 m と記載されているため比較的大型の円墳であったと推測される。

墳丘は全て盛土によって築成されたと考えられ、浅間 C 軽石 (As-C : 3 世紀後半～末降下) や榛名二ツ岳洗川テフラ (Hr-FA : 6 世紀初頭降下) を含む暗褐色土とロームブロックを主体とするに似た黄褐色土を交互に盛土し築成されている（石室上部より下については未調査のため不明）。現況の墳丘高は、墳丘の最高所で標高約 82.80 m、南側裾部で約 79.29 m、比高差 3.51 m を測る。

なお、墳丘から葺石の痕跡は確認することができなかった。

2 周堀

周堀は、調査地が住宅敷地内であるため墳丘南側（石室前面部）にしか確認トレンチを入れることができなかつた。幅 1 m、延長約 6 m のトレンチを設定して確認を行なったが、近現代の陶磁器片が混入する土坑が 1 基検出されたのみで明確な落ち込みは確認されなかった。ただし、周堀の存在については、墳丘盛土に多量のローム土が使用されていることから、周堀の掘削により排出されたローム土を盛土に利用した可能性が高いものと推測され、周堀は全周することなく石室の南側で途切れる形状であった可能性も考えられる。

3 前庭

石室（玄室）のみの調査としたため前庭形状等は不明であるが、渓門の東側で検出された石積みが前庭の袖垣と考えられる。

4 主体部

石室は 6 世紀初頭に榛名山二ツ岳の噴火により噴出し旧利根川（現在の広瀬川流域）を流下した角閃石安山岩を壁石構成材とする両袖型横穴式石室である。石室は玄室と羨道から構成され、玄室の形態はわずかに胴が張る長方形で、断面ハの字型を呈し、羨道長は玄室長に比べ非常に短い。開口方向は南西にあり、主軸方向は S – 35° – W を示す。残存状況は比較的良好で、玄室左壁と天井石は崩落していたが、奥壁と羨道部は当時の状態を残している。

石室の規模は、玄室奥壁から羨道入口部まで全長 8.65 m を測り、玄室長は主軸位置で 5.45 m、同奥幅 [2.05] m、同中央幅 2.10 m、同前幅 1.60 m を測る。羨道部については調査中に地権者の意向で本古墳を現状保存することになったため、羨道部の天井石や閉塞石を取り除いていないため推定になる部分もあるが、羨道長 (3.20) m、同奥幅 1.10 m、同前幅 0.90 m、同奥高 1.10 m、同前高 1.10 m である。

(1) 玄室

玄室の天井石は、左壁が壊れたことにより玄室内にすべて崩落していたが、計 5 石を確認した。天井石の材質は輝石安山岩で、平面の大きさは奥壁側から① 165 × 71cm、② 143 × 112cm、③ 141 × 135cm、④ 108 × 65cm、⑤ 109 × 62cm である。天井石の崩落の原因は不明であるが、角閃石安山岩は多孔質であるため加工が容易な反面、強度が弱い特徴があるため、多くの角閃石安山岩を使用した古墳の石室は崩壊している状況が確認されており、近年では弘仁 9 年（818）の巨大地震にその原因を求める見解も出ている。

玄室の壁面構成は、奥・側壁とも多石構成で、互目積みや奥壁の一部ではし字状の切石を施した石積みがなされている。石材は、奥壁の最上段部に天井石緩衝用の扁平な河原石が積まれている以外は、すべて紡錘形の角閃石安山岩が使用されており、石室内面側を面取りし、石同士の接触面 4 面を削る 5 面加工が施されている (Fig. 9 参照。壁面部長辺 25cm、短辺 21.5cm、奥行 35cm)。

石積みは、奥壁が根石を含め 7 ~ 10 段、右壁は 7 ~ 11 段、左壁は 2 ~ 8 段、玄門両袖部は 6 段が残存し、奥壁部と玄門部については、崩落せずに石室構築当時のままの状態を保っている。奥壁を構成する石材は比較的大きめの角閃石安山岩を比較的四角形に近い形に整えており、両側壁の角閃石安山岩は奥壁より小振りのものを使用している。

床面からの高さは、残存最高値で奥壁 2.45 m、右壁 2.40 m、左壁 1.30 m、玄門 1.30 m である。

壁石基部の根石の設置状況は、保存のために詳細な調査をしていないため不明であるが、門柱石の基部が当時の地表面である浅間 C 軽石を含む暗褐色土面に設置されていることから地山を整地して根石を設置したものと考えられる。

玄室の床面はほぼ平坦で、5 ~ 10cm 程度の河原石を約 15cm の厚さで敷いて床面としている。この河原石を取り除くと壁石を加工した際に発生した角閃石安山岩の削り屑が認められるが、量はあまり多くない。また、大きさも比較的細かいものであることから、加工の際に発生した削り屑はある程度除去した後に河原石を敷き始めたものと考えられる。

裏込めについても保存のため詳細な調査は実施していないが、玄室の東側で幅 40 ~ 50cm 程度の白色粘土に砂礫が混入する帯状のプランが確認されており、石室の補強のために白色粘土を主体に径 1 ~ 5cm 程度の砂礫を混入した粘土で石室を覆っていたものと考えられる。なお、天井石の上部については、埴丘土層断面から側面より大きい砂礫を混入した粘土を使用していたものと考えられる。

(2) 玄門及び羨道

羨門及び羨道部はすべて原位置で残っていた。羨門の左右の門柱石は紡錐状に 5 面加工した角閃石安山岩を 5 段・横積みにしている。羨道については未調査のため、壁・床面の状況等詳細は不明である。また、羨道の閉塞には、径 10cm ~ 25cm 大の河原石を用いて間詰めしており、閉塞回数は不明である。

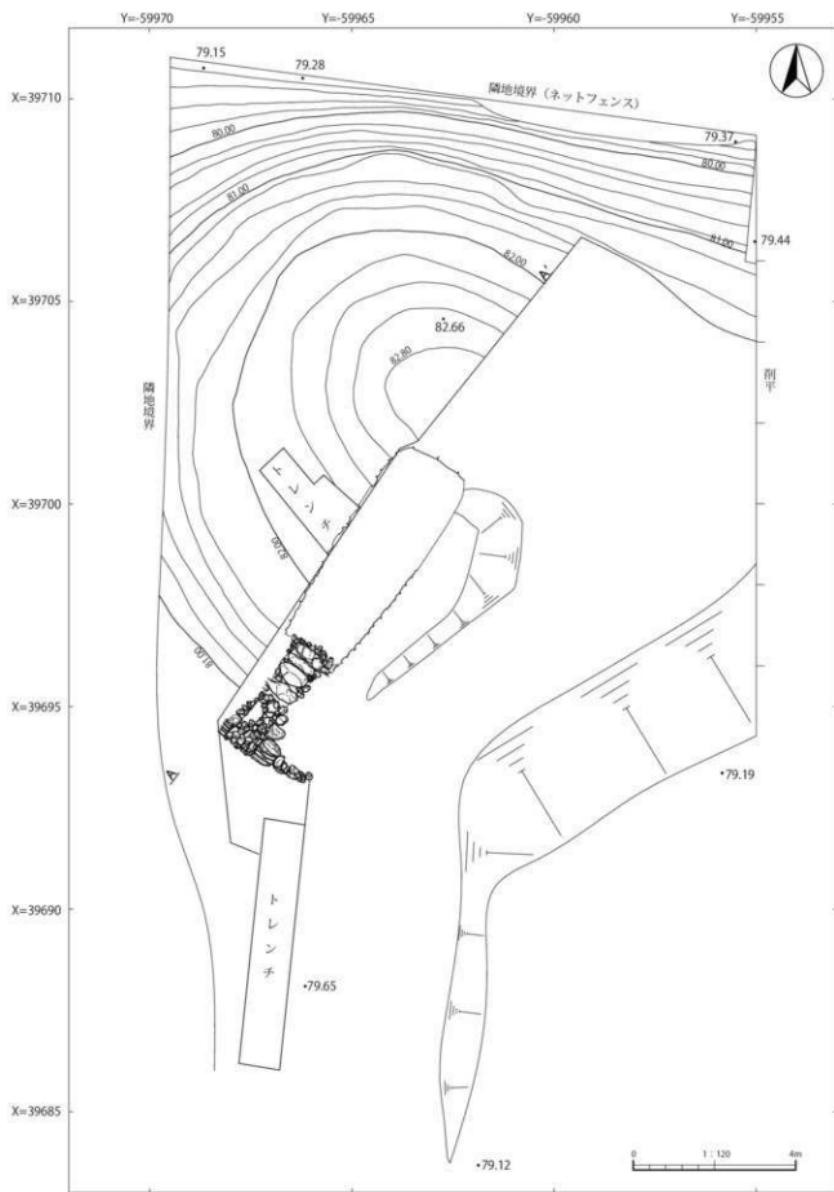


Fig. 4 二之宮八王子古墳全体図



Fig. 5 填丘土層断面図

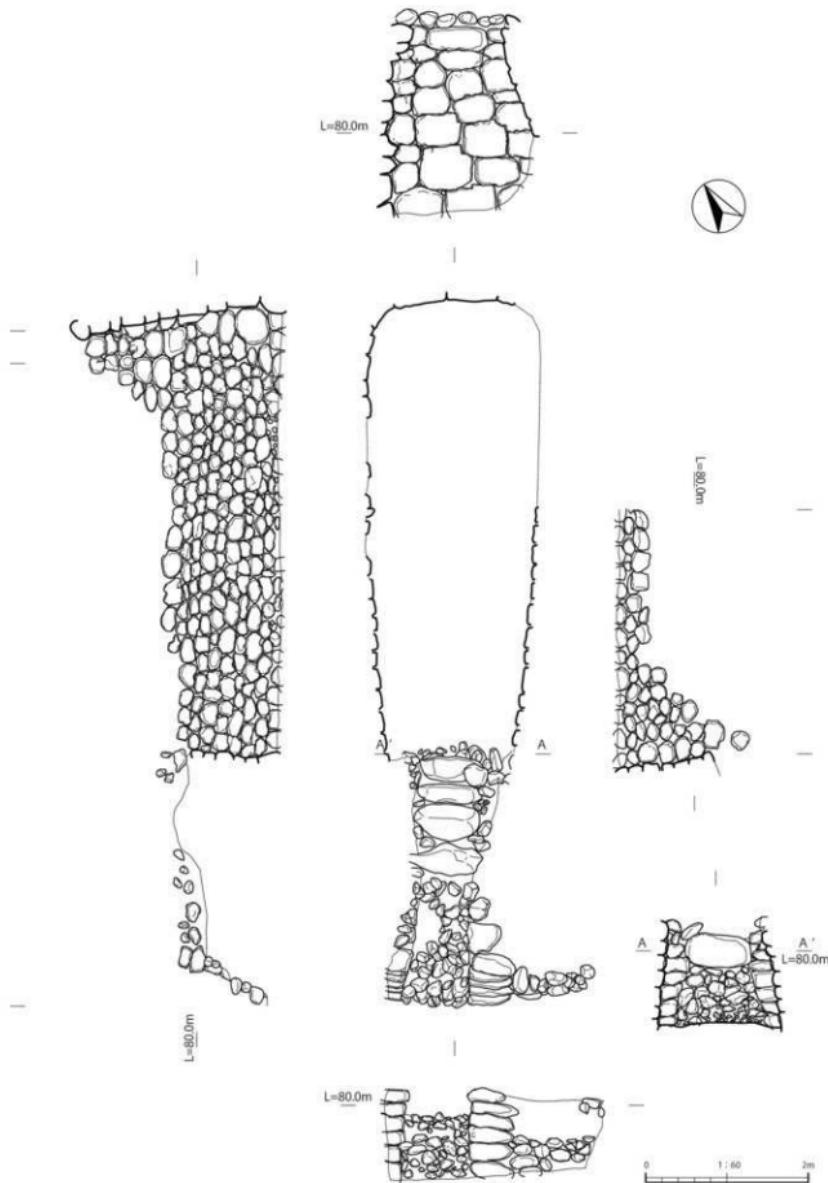


Fig. 6 石室展開図

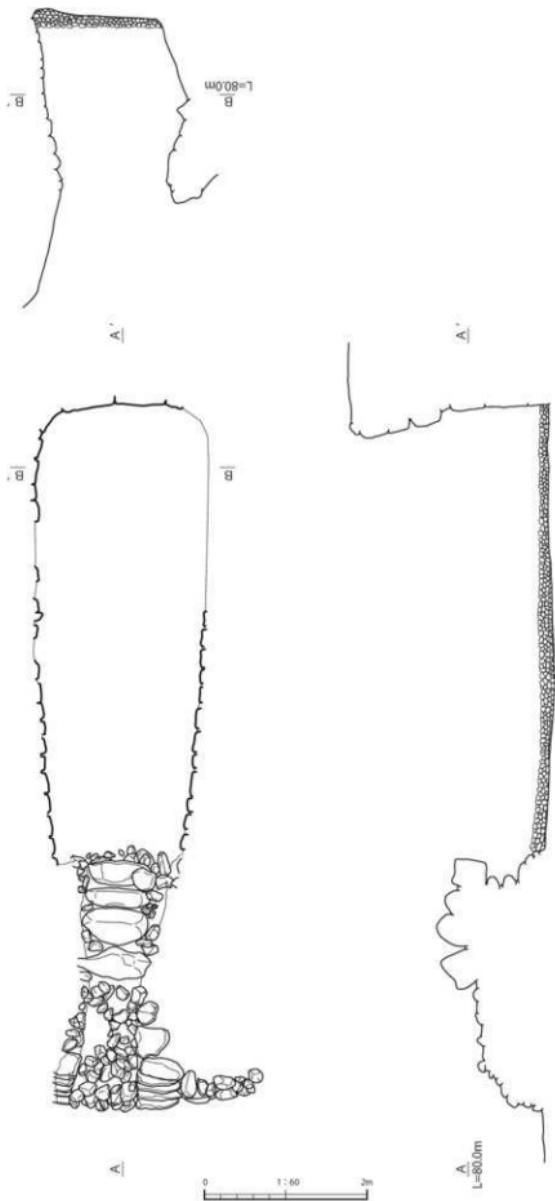


Fig. 7 石室エレベーション図

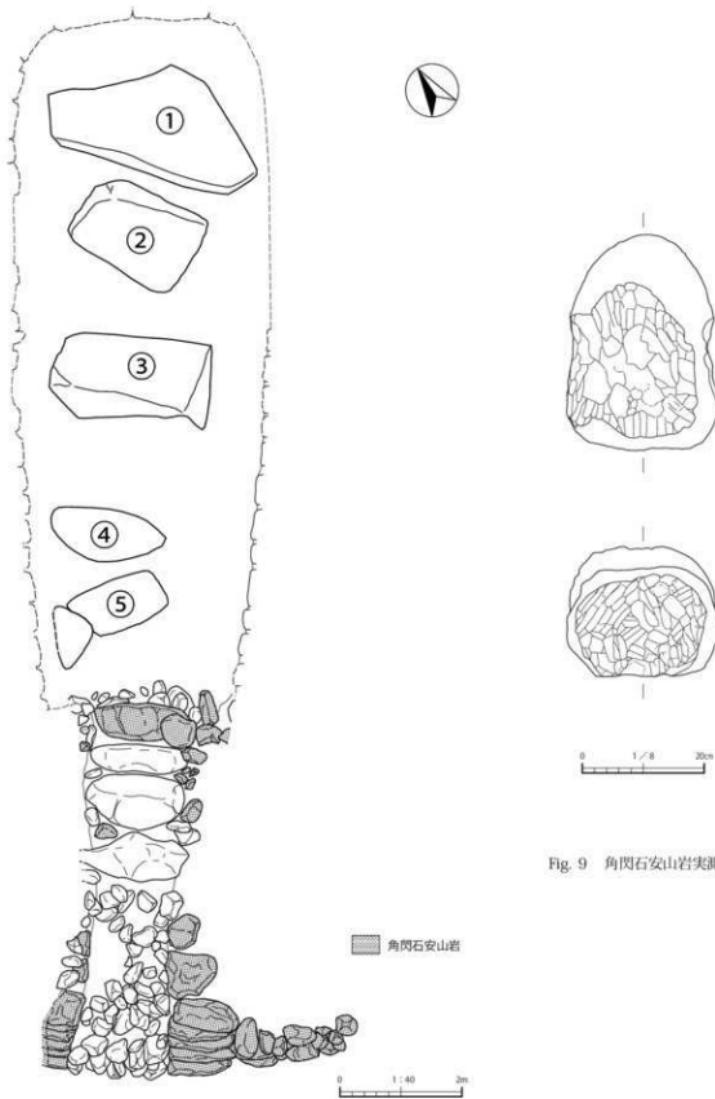
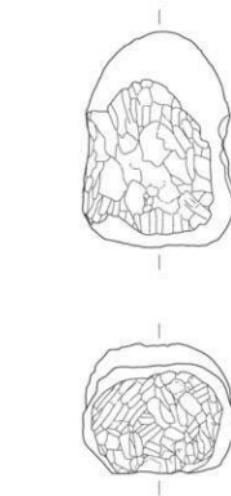


Fig. 8 天井石崩落状況・澆道部角閃石安山岩使用位置図

Fig. 9 角閃石安山岩実測図



第V章 出土遺物

1 墳丘部出土遺物

玄室上部の墳丘崩落土内及び羨道入口部付近からは、土師器壺・高环・坏等の破片 104 点、須恵器壺・平瓶等の破片 43 点が出土した。なお、出土遺物から埴輪は確認されていない。出土した土器類はいずれも小破片であったため、古墳に伴うと判断した須恵器大甕片のみを図示した。1・2 の須恵器大甕片は同一個体と考えられ、石室擾乱土上層より出土した。本来は墳頂部に置かれていたものと推測される。

2 石室（玄室）内出土遺物

石室（玄室）内からは、直刀（大刀・小刀）、鉄鎌、耳環等の武器や装身具 27 点が出土した。土器類の出土はなかった。また、複数の人骨・人歯が確認され少なくとも 4 人が埋葬されていたものと推測される。

（1）武器

直刀 大刀 2 振、小刀 1 振の合計 3 振が出土している。金-1 の大刀は、奥壁中央の壁際から切先が右壁方向に向いた状態で出土した。出土状況から金-4 の鞞尻金具（銀鍍金）、金-7 の足金具（銀鍍金）がセット品になるものと考えられる。金-2 の大刀は、右壁中央の壁際から切先が奥壁方向に向いた状態で出土した。出土状況から金-5 の鞞尻金具、金-10 の足金具がセット品になるものと考えられる。金-3 の小刀は、崩落した左壁の角閃石安山岩下から切先が玄門方向に向いた状態で出土した。

刀子 刀子は計 2 点出土しており、2 点とも玄門部寄りの右壁に近い位置より出土した。金-14 は刀身と茎の一部が途中で欠損しており、茎部に木質が残存している。金-15 は刀身先端部破片である。

鉄鎌 鉄鎌は玄門部寄りの左壁側に集中して出土しており、すべて広根系の鉄鎌である。金-16 は長三角形、金-17・19～21 は五角形の無茎鎌で、金-16～18・20～22 には矢柄の木質痕が残存している。金-19 は鎌身中央部に単孔があいている。金-23 の鉄鎌は刃先が横一文字の方頭形鎌である。

（2）装身具

耳環 耳環は計 4 点出土し、銅製で表面に鍍金がなされている。外径は 1.9cm のものと 1.7cm のものがあり、金-24・25、金-26・27 がセットになると考えられる。出土状況は金-24 が石室（玄室）中央部や西壁寄り、金-25 が石室（玄室）中央西壁際、金-26 が石室中央や奥壁寄りから出土している。金-27 については、床面砂礫土を篤いかけた際に出土しており、出土位置は不明である。対になると考えられる金-24、25 については、その距離が約 1m 離れていることから追跡時に動かされた可能性も考えられる。

（3）人骨・人歯

人骨 人骨は主に玄室中央部右壁寄りで出土している。中央部右壁寄りでは、南北約 2 m、東西約 40cm の範囲 (Fig.11) で土の色が骨粉により黄白色に変化しているのが確認された。出土した人骨は非常に脆い状態であり、大部分は骨粉化しており 2～3cm 程の四肢骨の一部が残存しているのみであった。

人歯 人歯は合計で 31 点出土している。人骨の分布範囲とほぼ同じ位置で出土しているが、一か所に集中する状況ではなく歯列を保った状態で出土したものはなかった。

なお、人歯の鑑定は、宮崎重雄氏に依頼し次のようなコメントをいただいている。

「本古墳出土の人歯は、少なくとも 4 個体に由来し、そのうち 1 個体は幼年期の女子、2 個体が少年期の男子と女子、もう 1 個体が性別不明の壮年期から熟年期であると推測される。さらに、壮年期から熟年期と未成年の各個体が埋葬していた可能性がうかがえる。」

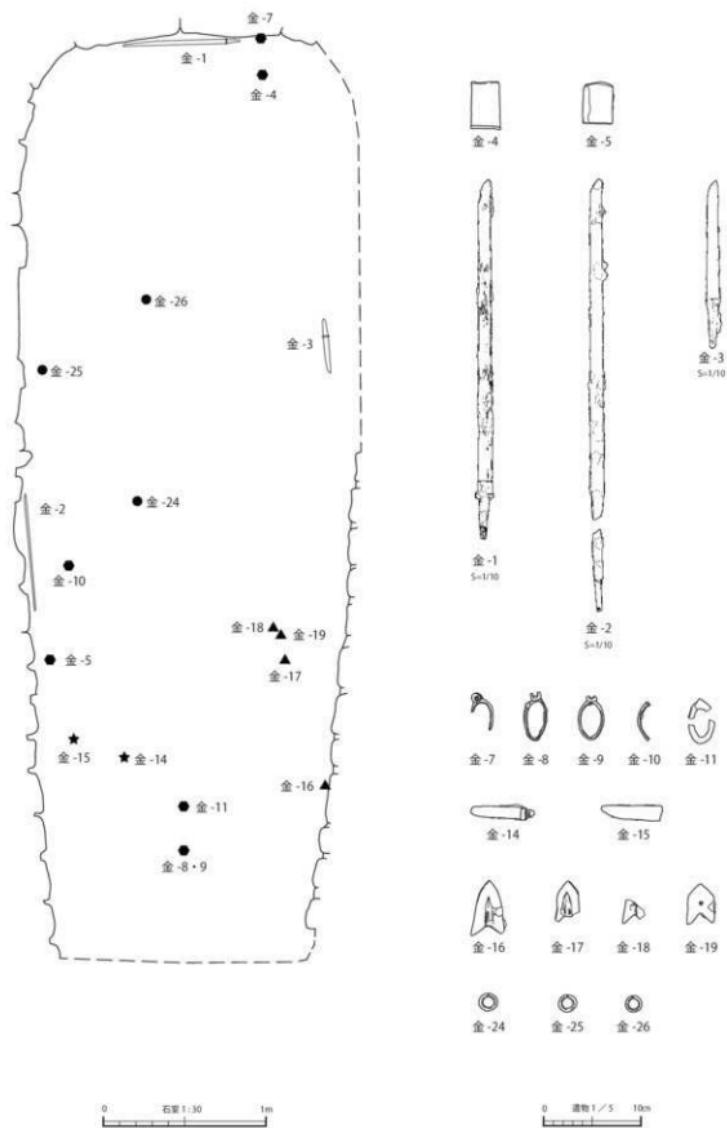
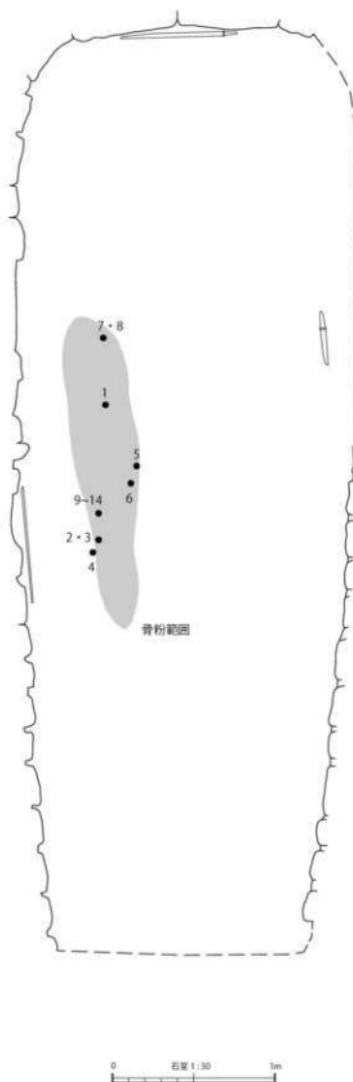


Fig. 10 石室遺物出土状況図



Tab. 1 人歯観察表

| No | 歯種 | | 歯冠 近遠心径 | 歯頸舌径 | 歯冠 長 | 咬耗度など | 登 録 番 号 |
|------|--------------|-----|------------|------|---------|---------------------------|------------------|
| 歯-1 | 第3 大臼歯 | 左上顎 | 8.9 | 11.0 | 4.5+ | 未咬耗 | 1 |
| 歯-2 | 第1 小白歯 | 左下顎 | 7.4 | 7.6 | 8.1 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 18 |
| 歯-3 | 第2. 大臼歯 | 右上顎 | 9.2 | 12.6 | 7.3 | 咬合面前面に エナメル質の咬耗あり | 18 |
| 歯-4 | 第1又は2 大臼歯 | 右上顎 | 9.6 | 11.6 | 6.4 | 4咬面に象牙質露出 | 19 |
| 歯-5 | 第2 乳臼歯 | 右下顎 | 10.6 | 8.7 | 5.7 | ごくわずか エナメル質のみの 咬耗あり | 20 |
| 歯-6 | 第1 大臼歯 | 左上顎 | 10.1 | 10.4 | 6.0 | 未咬耗 | 22 |
| 歯-7 | 第1 大臼歯 | 右下顎 | 12.1 | 11.2 | 6.7 | 頬側3咬面に 象牙質の露出あり | 23 |
| 歯-8 | 第2. 小白歯 | 右下顎 | 8.2 | 9.5 | 8.1 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 23 |
| 歯-9 | 第1 切歯 | 左上顎 | 8.5 | 5.7+ | 8.8+ | 歯冠未完成 | 27 |
| 歯-10 | 第2. 大臼歯 | 左下顎 | 11.1 | 10.7 | 6.5 | 頬側3咬面に 象牙質の露出あり | 27 |
| 歯-11 | 第1 小白歯 | 左上顎 | 6.5+ | 10.1 | 8.6 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 27 |
| 歯-12 | 第2. 大臼歯 | 左上顎 | 9.2 | 11.4 | 7.7 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 27 |
| 歯-13 | 第1 大臼歯 | 左上顎 | 9.8 | 12.3 | 6.3 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 27 |
| 歯-14 | 第2. 小白歯 | 左上顎 | 6.7 | 9.7 | 7.1 | エナメル質に わずかの咬耗あり | 27 |
| 歯-15 | 第1 大臼歯 | 右上顎 | 10.5 | 10.6 | 6.1 | 未咬耗 | 覆土 |
| 歯-16 | 第1 切歯 | 右下顎 | 5.6 | 4.3+ | 7.4+ | 未咬耗 | 覆土 |
| 歯-17 | 犬歯 | 右下顎 | 6.1 | 7.4 | 11.3 | 未咬耗 | 覆土 |
| 歯-18 | 第1又は2 大臼歯 | 左下顎 | 11.2 | 10.1 | 11.3 | 未咬耗 | 覆土 |
| 歯-19 | 第2. 大臼歯 | 左上顎 | 9.3 | 12.0 | 8.1 | 1咬面に 大きく象牙質露出 | 覆土 |
| 歯-20 | 第1又は2 大臼歯 | 右上顎 | 10.5 | 12.4 | 7.0+ | 2咬面に エナメル質露出 | 覆土 |

Fig. 11 人骨・歯出土状況図

Tab. 2 土器観察表

| No. | 出土位置 層・位 | 器種名 | ①径 ②底径 | ③器高 | ④胎土 ⑤燒成 | ⑥色調 ⑦保存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 登録番号 | 備考 |
|-----|-------------|-----|----------------|---------|------------|-------------|--------------------|------|------------|
| 1 | 玄室 覆土 | 漿器類 | ①(24.3) ②(9.0) | ③細粒 | ④透光端 | ⑤外曲 | 口縁部波状文。体部叩き目。 | 覆土 | 玄室上部崩落土内出土 |
| | | 甕 | ①- | ③ | ④白 | ⑤口・側部片 | 内面:口縁部横ナデ。体部円弧文叩き。 | | |
| 2 | 玄室 覆土 | 漿器類 | ①(26.2) | ②(26.2) | ③粗粒 | ④透光端 | 外曲:口縁部波状文。体部叩き目。 | 覆土 | 玄室上部崩落土内出土 |
| | | 甕 | ③- | ④ | ⑤灰白 | ⑥口・側部片 | 内面:口縁部横ナデ。体部円弧文叩き。 | | |

(①口径・器高・底径の単位はcmである。現存値を()、復元値を〔 〕で示した。)

Tab. 3 金属製品観察表

| No. | 出土位置 層・位 | 種類 | 計測値(cm)・特徴 | | | 登録番号 | 備考 |
|------|-------------|------------|--|---|---------|------|-------------|
| 金-1 | 玄室 床直 | 鉄製品 大刀 | 全長: 74.2 刀部長: 62.4 基厚: 0.2 | 最大刀部幅: 2.7 刀厚: 0.8 茎長: 11.8 最大茎部幅: 1.2 重さ: 730 目釘穴: 1孔・孔径 3mm | 木質痕有 | 10 | 奥壁中央部より出土 |
| 金-2 | 玄室 床直 | 鉄製品 大刀 | 全長: 85.4 刀部長: 78.9 0.3 重さ: 640 | 最大刀部幅: 2.5 刀厚: 0.8 茎長: 6.5 基厚: 0.3 木質痕有 | 木質痕有 | 15 | 西壁中央部より出土 |
| 金-3 | 玄室 床直 | 鉄製品 小刀 | 全長: 34.2 刀部長: 24.2 刀部幅: 2.5 厚さ: 0.4 | 茎長: 10.0 茎幅: 1.5 基厚: 0.3 重さ: 180 目釘穴: 1孔 基部に木質痕有 | 木質痕有 | 26 | 東壁崩落石下より出土 |
| 金-4 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長さ: 4.8 | 幅: 3.0 厚さ: 1.7 重さ: 26.1 | 鉄地脚断面鍛金 | 7 | 金-1の銅尻金具 |
| 金-5 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長さ: 4.3 | 幅: 3.1 厚さ: 2.3 重さ: 26.4 | | 21 ① | 金-2の銅尻金具 |
| 金-6 | 玄室 覆土 | 鉄製品 刀鋸具 | 長さ: 3.4 | 幅: 2.1 厚さ: 1.7 重さ: 10.5 | | 覆土 7 | 鍔 |
| 金-7 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長径: (4.1) 短径: (2.1) | 幅: 0.7 重さ: (2.8) 形狀「B」の字、上部の單環は軸から ずれる 下半部欠損 鉄地脚断面鍛金 | | 9 | 金-1の銅尻金具か? |
| 金-8 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長径: (5.0) 短径: (2.3) | 幅: 0.7 重さ: 59 形狀「B」の字、上部の單環は軸からずれ る | | 11 ① | 足金具 |
| 金-9 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長径: (4.5) | 幅短径: 2.6 幅: 0.8 重さ: 6.2 形狀「B」の字 | | 11 ② | 足金具 |
| 金-10 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 環長径: (4.0) 環短径: (1.3) | 幅: 0.4 重さ: 2.0 | | 16 | 金-2の銅尻金具か? |
| 金-11 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長径: (4.8) | 短径: (2.6) 厚さ: 0.3 重さ: 5.8 | | 12 | 鍔? |
| 金-12 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 環長径: (1.8) | 環短径: (1.7) 幅: 0.5 重さ: (1.0) | | 覆土 6 | 足金具 |
| 金-13 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀鋸具 | 長径: 3.4 短径: (1.9) | 厚さ: 0.5 重さ: (2.1) | | 21 ② | 金-2の銅資金具 |
| 金-14 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 全長: (6.5) | 刀部長: (5.1) 刀部幅: (1.5) 茎長: (1.1) 重さ: (9.2) | 茎部に木質付着 | 13 | 茎・刀身の一部欠損 |
| 金-15 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 全長: (6.3) | 刀部長: (6.3) 刀部幅: 1.7 茎幅 0.7 重さ: (11.4) | | 14 | 茎から刀身中位まで欠損 |
| 金-16 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 茎三角形 断面: 平造 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 無茎 最大長: 5.8 最大幅: 3.2 最大厚: 0.6 重さ: 5.0 木質付着 | | 3 | |
| 金-17 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 五角形 断面: 平造 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 無茎 最大長: (4.0) 最大幅: (2.4) 最大厚: 0.7 重さ: 6.8 木質付着 | | 4 | |
| 金-18 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 平造 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 無茎 最大長: (2.2) 最大幅: (2.1) 最大厚: 0.3 重さ: 1.7 木質付着 | | 5 | |
| 金-19 | 玄室 床直 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 五角形 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 平造 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 無茎 最大長: 4.6 最大幅: 2.9 最大厚: 0.6 重さ: 8.4 中央部に孔あり | | 6 | |
| 金-20 | 玄室 覆土 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 五角形 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 無茎 最大長: 4.7 最大幅: 2.4 最大厚: 0.6 重さ: 6.1 木質付着 | | 覆土 1 | |
| 金-21 | 玄室 覆土 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 五角形 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 開狭 茎部形: 短茎 最大長: 3.9 最大幅: (2.4) 最大厚: 0.4 重さ: 4.2 木質付着 | | 覆土 2 | |
| 金-22 | 玄室 覆土 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 三角形 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 平造 茎部形: 無茎 最大長: (3.3) 最大幅: (2.3) 最大厚: 0.3 重さ: (2.5) 木質付着 | | 覆土 3 | |
| 金-23 | 玄室 覆土 | 鉄製品 刀子 | 鉄身外筋: 方頭形 鉄身内筋: 平造 | 鉄身開閉: 平造 茎部形: 無茎 最大長: 6.2 最大幅: 3.2 最大厚: 0.5 重さ: 14.6 | | 覆土 5 | |
| 金-24 | 玄室 床直 | 金銀製品 耳環 | 外径: 1.9 × 1.8 内径: 1.2 × 1.1 | 断面: 0.5 × 0.4 重さ: 4.4 | | 17 | |
| 金-25 | 玄室 床直 | 金銀製品 耳環 | 外径: 1.9 × 1.8 内径: 1.2 × 1.1 | 断面: 0.5 × 0.4 重さ: 4.2 | | 24 | |
| 金-26 | 玄室 床直 | 金銀製品 耳環 | 外径: 1.7 × 1.7 内径: 1.1 × 1.1 | 断面: 0.4 × 0.3 重さ: 2.3 | | 25 | |
| 金-27 | 玄室 覆土 | 金銀製品 耳環 | 外径: 1.7 × 1.7 内径: 1.1 × 1.1 | 断面: 0.3 × 0.3 重さ: 2.2 | | 覆土 | |

(①特に記載の無い単位はcm、重さの単位はgである。現存値を()、復元値を〔 〕で示した。)

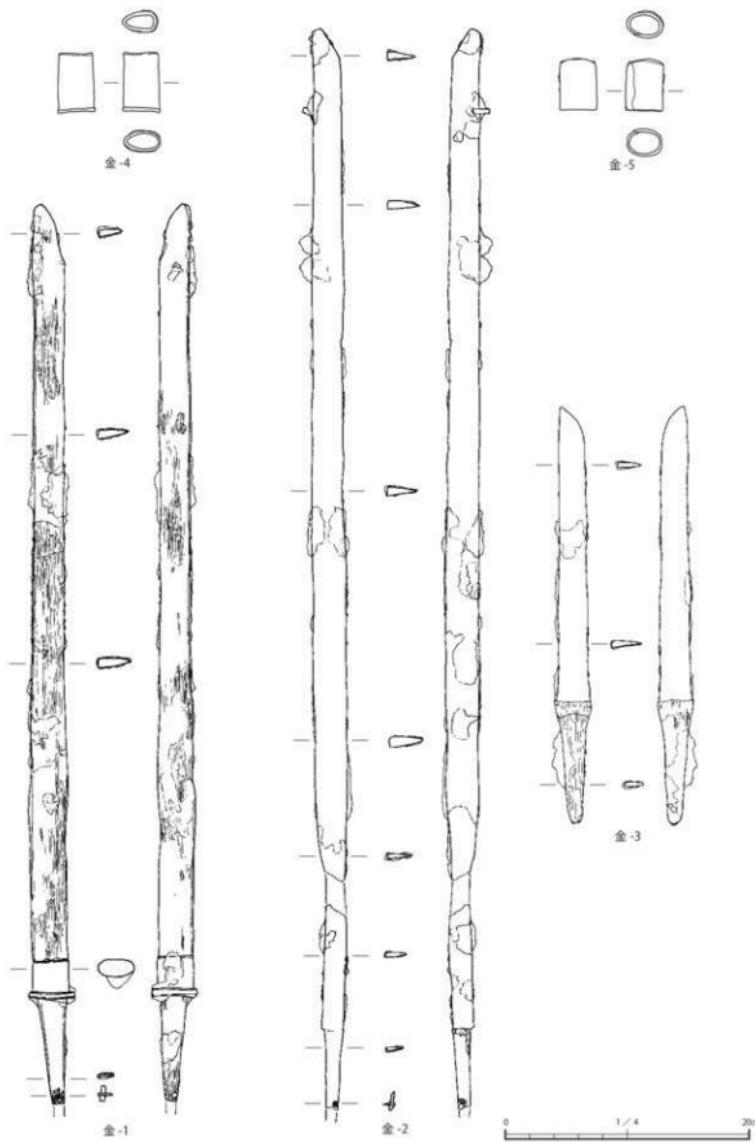


Fig. 1.2 金属製品実測図(1)

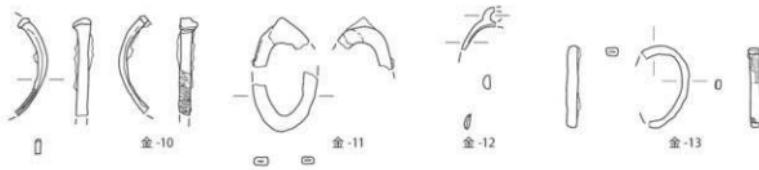
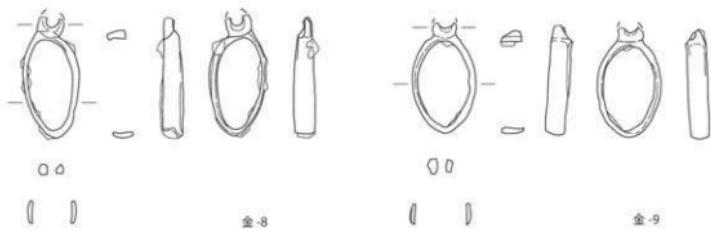
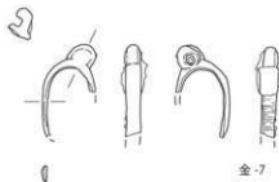
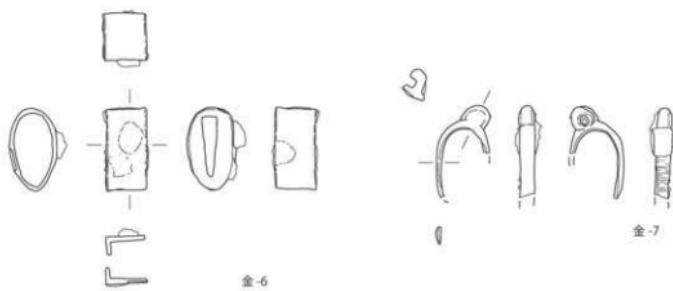
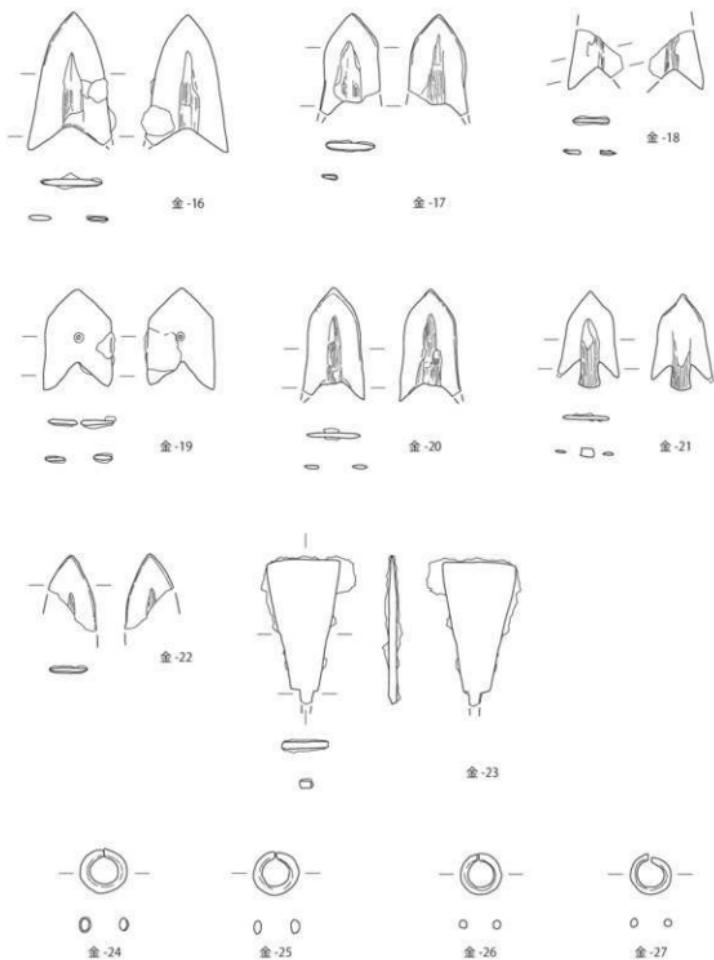
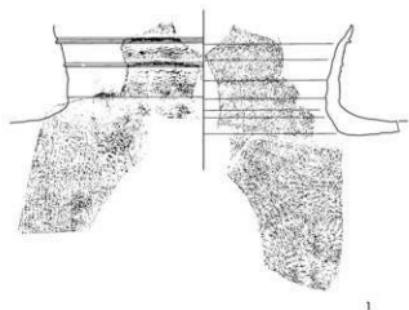


Fig. 1 3 金属製品実測図 (2)



0 1/2 10mm

Fig. 1 4 金属製品実測図 (3)



1



2



Fig. 15 土器実測図

第VI章　まとめ

1　二之宮八王子古墳について

今回、調査を実施した本古墳は、字、地番等を検証した結果、昭和10年の古墳分布調査成果をまとめた『上毛古墳総覧』に記載の「荒砥村第291号墳」に該当する。当時、荒砥村役場で作成した『古墳基帳』に記載されている古墳の現況は以下のとおりである。

番 號 弐九壹

所在地 勢多郡荒砥村大字二之宮八王子甲二, 五四五 宅地 五四〇坪

勢多郡荒砥村大字二之宮八王子乙二, 五四五 宅地 一六八坪

型 式 円墳

大 サ 高サ 五米

径 四〇米

現 状 雜木林、頂上に小祠ニツアリ、南スコシ削ラレ室アリ、漢道ノ入口ニ石アリテ上ニ檜アリ

参考事項 美道の入口ニ元大檜アリシ由ナリ

今回、発掘調査の実施前に本古墳の周囲を確認したところ、現地は上記の記載内容とほぼ同様の状況で、墳丘には檜の大木と雑木が數本生え、稭橋の小祠が建っていた。このことから本墳は、墳丘東・北側部分が近年の宅地造成等により一部削平されたものの、昭和10年の調査時から古墳の状況はあまり変わっていないものと考えられる。

2　周辺の古墳について

本古墳は、広瀬川左岸の荒砥川と神沢川の合流地点から北方約1.1kmの荒砥川左岸の微高地上に位置する。この両河川に挟まれた「二之宮町字八王子」の地には、本古墳の他に前方後円墳1基（荒砥村286号墳）、円墳10基（荒砥村281～285、287～290、292号墳）が存在していたことが『上毛古墳総覧』に記載されている。このうち第284～290号、292号墳は発掘有とされており、調査報告が残るのは、大正12年5月18・19日に調査を実施した290号墳（地獄塚）のみである。290号墳の調査を行った豊國覚堂によると、石室は一度掘り返した形跡があり、玄室部は土砂で埋もれていたとのことである。その時の出土品（主頭大刀柄頭、鍔、鞘尻金具、鍔、切羽など）は、東京国立博物館に寄贈され『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇（関東II）』に掲載されている。なお、平成の古墳総合調査では、一部現存している古墳として第281、286、291、292号墳が掲載されているのみで、それ以外の古墳は存在せず、昭和の古墳調査以降2/3の古墳が何らかの形で削平され消滅している。

また、本古墳が位置する荒砥川と神沢川に挟まれた国道50号線以南で発掘調査を実施した古墳としては、本古墳の北西約1.8kmの荒砥川左岸に位置する5世紀後半の前方後円墳である今井神社古墳を中心とする今井神社古墳群がある。今井神社古墳群は上毛古墳総覧で27基の古墳が存在していたとされているが、昭和56年の圃場整備事業に伴う調査時には、後世の耕作等によりほとんどの古墳が削平されており、区域内にはわずかに円墳3基のみが残存する状況であった。確認された3基の古墳のうち主体部が確認できた2号墳（荒砥村312号墳）は、石室の側壁に角閃石安山岩削石、奥壁に輝石安山岩の自然石と角閃石安山岩を用いた両袖型の横穴式石室で、6世紀末頃の構造と推定されている。3号墳についても主体部は確認できなかったものの裏込めに角閃石安山岩が混入していることから、今井神社古墳群には角閃石安山岩を使用した古墳が複数あったことが推定され、今井神社古墳周辺は5世紀後半以降7世紀代に至るまで墓域として利用されていたことが確認されている。さらに

Ta**4** 『上毛古墳綜覧』に掲載されている二之宮字八王子所在の古墳（太格が二之宮八王子古墳）

| 番号 | 古墳 名稱 | 古墳 形状 | 現狀 | 有無 | 所在地 | 面積 | 大きさ | 高さ | 所有者 | 備考 | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------------|------------------------------|-------------|--------------|-------------|------------------|------------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|------------------|-------------|-------------|-------------|---|
| 二九一 | 二九一 | 二九〇 | 地盤塚 | 手長塚 | 二八九 | 二八八 | 二八七 | 二八六 | 二八五 | 二八四 | 二八三 | 二八二 | 二八一 | 古墳 | | | | | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 円形 | 前方後円 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 古墳 | | | | | |
| 萬 雄木地 神堂有 | 小 祠 有 雄木林 | 烟 | 同 | 同 | 桑園 | 宅地 | 烟 | 小 祠 有 | 石塔有 | 同 | 雄木林 | 小 祠 有 | 雄木林 | 現狀 | | | | | |
| 有 | 無 | 大 正 一 四 | 有 | 同 | 同 | 同 | 同 | 有 | 同 | 同 | 同 | 無 | 有無 | 發掘 | | | | | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 二之宮 八王子 | 甲 | 二之宮 八王子 | 甲 | 二之宮 八王子 | 甲 | 二之宮 八王子 | 甲 |
| 二之宮 五五七 | 乙 二之宮 四五五 | 乙 二之宮 四五五 | 甲 | 二之宮 五五五 | 二之宮 四八四 | 二之宮 四八三ノ一 | 二之宮 四八七ノ一 | 二之宮 四八七ノ二 | 二之宮 四九六 | 二之宮 四九五 | 二之宮 四九六 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | 二之宮 四九二 | |
| 墓地 | 宅地 | 宅地 | 同 | 同 | 烟 | 墓地 | 墓地 | 宅地 | 墓地 | 宅地 | 同 | 同 | 烟 | 面積 | 面積 | 面積 | 面積 | 面積 | |
| 一一一 | 一 八 一 八 | 一 八 〇 〇 | 二 〇 七 | 六 二 三 | 六 二 四 | 二 五 一 八 | 一 〇 | 一 三 〇 | 一 三 一 | 三 〇 〇 | 三 〇 〇 | 三 〇 〇 | 三 〇 〇 | 一 六 五 尺 | 一 六 五 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | |
| 一〇〇尺 | 一 三 一 尺 | 一 〇 〇 尺 | 同 | 同 | 不詳 | 不詳 | 二 〇 〇 尺 | 二 三 尺 | 二 三 尺 | 五 〇 尺 | 五 〇 尺 | 七 尺 | 七 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | 一 三 尺 | |
| 一〇尺 | 一 六 尺 | 一 〇 尺 | | | | | 一 六 尺 | 一 尺 | 一 尺 | 三 尺 | 三 尺 | 同 | 同 | 葉木福太郎 | 葉木福太郎 | 葉木福太郎 | 葉木福太郎 | 葉木福太郎 | |
| 外一名 神澤彌蔵治 | 樺澤義次郎 樺澤義よの 松井栄吉 内田政五郎 | 内田勝道 内田勝道 内田勝道 内田勝道 | 内田 林 | 樺澤文平 樺澤文平 | 同 | 内田源久 | 武井安次郎 武井安次郎 | 内田みよ 内田みよ | 内田みよ 内田みよ | | | | | | | | | | |
| | | | 人骨 | | | | 鏡士偶土器 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 降火伝説 | | | 出土品 城神社保管 | | | | | | | | | | | |
| | | | 石器現存 | | | | | | | | | | | | | | | | |

本古墳の北西約 600 m の位置には、一級河川宮川の河川改修事業に伴う調査において古墳時代前期集落の上に 5 世紀後半と推定される円墳が 4 基検出された荒砥宮川遺跡、その下流部にあたる荒砥宮原遺跡からも同時期の円墳が 2 基検出されており、この両遺跡の周辺地においても 5 世紀後半代には古墳の築造が開始され、居住域から墓域へと移行して初期群集墳を形成していたことが確認されている。

一方、本古墳の北東約 1.8 km の神沢川右岸台地には、昭和 55 年の圃場整備事業に伴う調査で円墳 21 基が検出された荒砥二之塚遺跡がある。検出され円墳は 7 世紀後半から 8 世紀前半頃に築造された終末期の群集墳で、石室は輝石安山岩の割石（赤城山体崩壊を由来とする流れ山の構成材）を乱石積した両袖型横穴式石室である。なお、荒砥二之塚遺跡の古墳は、石室の構築材に角閃石安山岩を一切使用せず、輝石安山岩を使用する赤城南麓の影響を受けているものと考えられるが、荒砥二之塚遺跡の群集墳が築かれた 7 世紀後半段階になると石室の構築材として使用できるサイズの角閃石安山岩が周辺の旧利根川流域で枯渇したため、赤城南麓の輝石安山岩の割石を使用した可能性も考慮する必要があるであろう。

本古墳周辺の広瀬川低地帯内やその周辺部では、古墳時代の中期以降になると新たな集落が形成されるようになったことが、近年の調査事例から明らかになってきている。これら集落の増加に伴い周辺部で一気に古墳の築造が増加し、今井神社古墳群をはじめとする群集墳を形成したものと考えられる。今回調査を実施した本古墳についても、南方に墳丘全長 60 m と推定される前方後円墳である荒砥村 286 号墳が存在しており、この古墳を中心にして形成された群集墳の中の一つであったと考えられる。

3 角閃石安山岩を使用した古墳について

本古墳は、角閃石安山岩を石室の壁材として利用している。6 世紀初頭に起きた榛名山二ツ岳の噴火により大量に噴出した角閃石安山岩は、渋川市の東側を流れていた旧利根川（現在の広瀬川流域）に土石流として流入し、前橋・伊勢崎方面を南下し、埼玉県まで運ばれたと考えられている。当時、この角閃石安山岩は、旧利根川流域で大量に入手が可能で、軽くて運搬がしやすく加工が容易であったことから、旧利根川の流路に沿うような形で古墳の石室構築材として前橋市、玉村町、伊勢崎市～太田市、埼玉県本庄市、行田市付近で多く使用されている。

現在、角閃石安山岩を石室構築材として使用した古墳は 250 墳以上確認されているが（Tab. 5）、既に削平されてしまった古墳が相当数あることを考えると数値的には増えるものと考えられる。前橋市域の分布状況としては、旧勢多郡域では赤城白川流域の富士見地区にほぼ限定され、旧利根川の下流域に行くに従い増加する傾向がみられる。また、本古墳の位置する広瀬川左岸で角閃石安山岩を石室構築材として使用した古墳としては、伊勢崎市南千木町の 6 世紀後半の前方後円墳である阿弥陀古墳や同東小保方町の鶴巣古墳、同本間町の 7 世紀後半の円墳である本間町古墳群 6 号古墳、同波志江町の 7 世紀末～8 世紀初頭の円墳である片山古墳群内の祝堂古墳等伊勢崎市周辺で数多く確認されている。

一方、広瀬川右岸台地上では、6 世紀後半から 7 世紀初頭の前方後円墳である前橋市文京町の不二山古墳、同山王町の金冠塚古墳等、6 世紀後半以降に築造された朝倉・広瀬古墳群の主要な前方後円墳の石室には角閃石安山岩が使用されている。さらに烏川流域では高崎市の綿貫観音山古墳をはじめ玉村町の 6 世紀後半の前方後円墳である小泉大塚越 3 号古墳、6 世紀後半の円墳である川井・茂木古墳群の萩塚古墳、6 世紀後半から末頃の円墳である小泉長塚 1 号古墳、旧芝根村一号古墳等がある。

なお、本古墳の南方 2.2 km に位置する伊勢崎市安堀町の西太田遺跡 6 からは、ほぼ未加工の角閃石安山岩が大量に古墳時代後期の堅穴建物跡から出土している。この集落は、旧利根川流域から拾ってきた角閃石安山岩を一時的にストックし、古墳の築造先に供給した集落と考えられ、調査担当者は「古墳造りのムラ」であった可能性を指摘している。³¹⁾これまでに、このような集落は、西太田遺跡 6 以外から検出されていないが、旧利根川流域に転がっている角閃石安山岩は勝手に使用することは出来ず、拠点集落に一度集められ、そこから各地に配分さ

れる管理体制があったことを示唆するものであり、本古墳で使用されている角閃石安山岩もこのような集落から運ばれてきた石材を使用して築造された可能性も考えられる。

4 本古墳石室の特徴について

本古墳の石室は両袖型の横穴式石室で、側壁の上部と天井石が崩落していたものの比較的よく残存していた。石室全長 8.65 m、玄室長 5.45 m、同最大幅 2.10 m、同奥幅 [2.05] m、羨道長 3.20 m、同奥幅 1.10 m で、高さは玄室奥で 2.45 m、羨道で 1.30 m を測る。その特徴としては、①側壁、奥壁ともに壁石の背後の面を除く五面を削り加工した角閃石安山岩を使用し、②玄室に比べ羨道が短く、玄室平面が長く緩い削張をなす点が挙げられる。

まず①の特徴については、本古墳は現状保存を行うこととなったため石室を解体して壁石を確認することはできなかったが、玄室に崩落していた角閃石安山岩を観察すると、大部分の角閃石安山岩が背面を除く 5 面を加工している状況を確認できた (Fig. 9)。一部の角閃石安山岩では背面も加工しているものがあったが、これは、石材の長さを合わせるために背面を調整したものと考えられ、細かな加工はされていない。側壁の角閃石安山岩は、石室の内面になる部分をやや斜めに削りほぼ平坦に仕上げ、隅部は加工せずに自然面が残っている。また、横の目地は比較的よく通っているが、角閃石安山岩の大きさが不揃いであるためやや雑然としている。奥壁では、側壁より一回り大振りの角閃石安山岩を使用して内面になる部分を平坦に仕上げ、一部の石材は L 字状に削られた切組積みが施され、側壁に比べ石材の加工度は高い。使用している石材の大きさは幅 25cm、厚さ 20cm、奥行 35cm 前後のものを主体とし、奥壁に使用されている幅 65cm、厚さ 55cm、奥行不明のものが最大である。

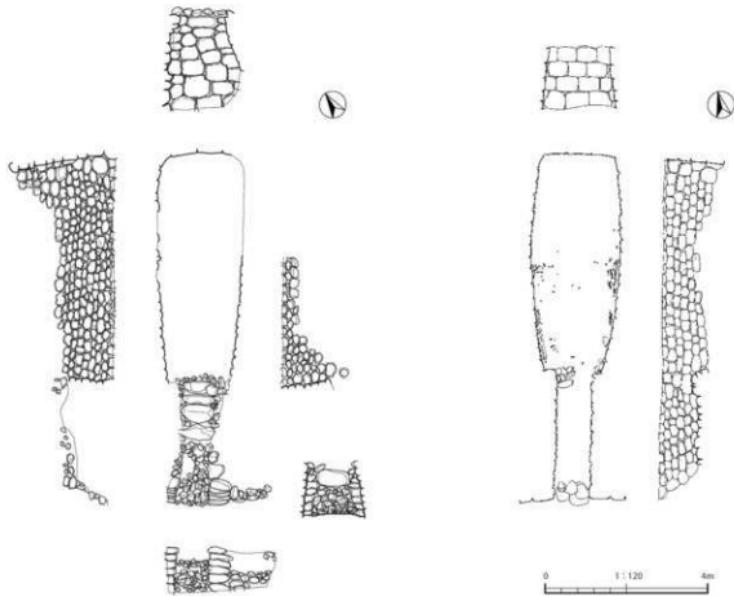


Fig. 16 二之宮八王子古墳（左）と萩塚古墳（右）の石室実測図

次に②の特徴については、本古墳は玄室長5.45 mに対して羨道長が3.20 mになり玄室は羨道の1.7倍の長さとなっている。この特徴を持つ石室は、旧利根川中流域を中心として複数確認されている。特に玉村町の萩塚古墳の石室は、全長8.70 m、玄室長5.46 m、同最大幅2.20 m、同奥幅1.78 m、羨道長3.24 m、同奥幅0.88 m（高さ玄室1.5 m以上、羨道0.9 m）を測り、本古墳と石室規模がほぼ同じである。また、石室の構造も側壁には小振り、奥壁には大振りの角閃石安山岩を使用し、平面形状も長大な緩い胸張りをなすものであり、本古墳と同一の規格により造られたものと考えられる。なお、緩い曲線をもつ胸張の角閃石安山岩互目積石室の出現期は6世紀後半とされており、萩塚古墳は出現期の古墳に該当し、埴輪を持つ点で本古墳に先行するものである。

5 まとめ

以上、本古墳の特徴を概観してみたが、本古墳は壁石に角閃石安山岩の削石を主要構築材として使用した両袖型横穴式石室、積み方は互目積で一部切組積が見られること、玄室の平面形が胸張形、出土遺物に埴輪を伴わない等の特徴から7世紀前半頃の築造と推定され、出土遺物（鉄鏃）から追葬は7世紀中頃まで行われたものと考えられる。また、この古墳群を支えた人々の主たる居住域は、位置関係や隣接する年代から荒砥川左岸微高地上の萩原遺跡や荒砥天之宮・鳥原遺跡などである可能性が考えられる。

追記

当初、本古墳は、住宅の付属物置建設に伴い墳丘を全て削平する予定であったため、記録保存を目的として調査を開始した。調査を開始すると、想定より残りのよい石室が確認されたため、古墳の重要性を地権者に説明したところ、「こんなにすごい石室が残っているのであれば、開発を中止し古墳を保存したい」との結論に至った。調査については、急遽予定を変更して既に調査を開始している玄室内のみを対象とし、それ以外の羨道部や墳丘の調査は行わずに現状保存を図ることとした。そのため古墳の構築方法の解明はできなかつたものの、1,400年にわたって二ノ宮八王子の地を見守ってきた本古墳を後世に残すことができたことは喜ばしいことであり、今後も大切に保護できることを切に願うものである。

調査にあたり、地権者である棟澤治久様には保存についてご協力をいただいたこと、末筆ながら御礼申し上げます。

注1 調査担当者、永井智教氏の教示による。

（引用・参考文献）

- 群馬県史跡名勝天然記念物調査会「上毛古墳総観」 1938
群馬県教育委員会「群馬県古墳総観」 2017
霞岡國堂「二ノ宮の地獄塚を発掘す」『上毛及上毛人』74号 1923
東京国立博物館「東京国立博物館四版日本古墳遺物篇（開闢II）」 1983
秋澤 武「利根川流域における角閃石安山岩片岩石の分布と歴史的意義」『群馬県立歴史博物館紀要』第21号 2000
志村 恒「群馬県内の胸張形石室」『群馬県内の横穴式石室V（補遺編）』群馬県古墳時代研究会 2004
【報告書】
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥北山遺跡 今井神社古墳群 荒砥青柳遺跡」 1986
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥宮山遺跡 荒砥宮原遺跡」 1993
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥・二ノ塚遺跡」 1985
(有)歴史考査まほら「西太田遺跡6」 2017
玉村町教育委員会「川井・茂木古墳群」 2009

Tab. 5 角閃石安山岩使用古墳一覧

| No | 古墳総観 | 古墳名 | 所在 | 墳形 | 規模 | 主体部 | 玄室平面形 | 石積 |
|----|---------|---------------|------------|------|---------------|-----------|-------|----------|
| 1 | 前嶋 6 | 不二山古墳 | 前嶋市文京町 | 前方後円 | 全長 54.5 m | 円袖型横穴式石室 | 半笠形 | 互目積 |
| 2 | 前嶋 7 | 天川二子山古墳 | 前嶋市文京町 | 前方後円 | 全長 104 m | 横穴式石室(推定) | — | — |
| 3 | 前嶋 11 | 朝倉 1号古墳 | 前嶋市朝倉町 | 円 | 直径 16.5 m | 袖無型横穴式石室 | — | — |
| 4 | 前嶋 13 | 朝倉番号古墳 | 前嶋市朝倉町 | — | — | 横穴式石室 | — | — |
| 5 | 前嶋 21 | 山王金冠塚古墳 | 前嶋市山王町 | 前方後円 | 全長 53 m | 円袖型横穴式石室 | 短椭形 | 通日・切削磨 |
| 6 | 前嶋 31 | 山王大塚古墳 | 前嶋市山王町 | 円 | 直径 44 m | 円袖型横穴式石室 | 短椭形 | 互目積 |
| 7 | 前嶋 32 | 上闊第 10 号古墳 | 前嶋市山王町 | 円 | 直径 10 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 8 | 前嶋 34 | 蛇穴山古墳 | 前嶋市蛇穴町蛇社 | 方 | 辺 44 m | 円袖型横穴式石室 | 正方形 | 切削磨 |
| 9 | 前嶋 35 | 宝塔山古墳 | 前嶋市蛇穴町蛇社 | 方 | 辺 66 m | 袖無型横穴式石室 | 正方形 | 切削磨 |
| 10 | 前嶋 36 | 愛宕山古墳 | 前嶋市蛇穴町蛇社 | 方 | 辺 56 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 乱石積 |
| 11 | 前嶋 37 | 蛇社 2号山古墳 | 前嶋市蛇穴町蛇野 | 前方後円 | 全長約 90 m | 袖無型横穴式石室 | 半笠形 | 互目・切削磨 |
| 12 | 前嶋 39 | 袖野葉塚塚古墳 | 前嶋市蛇穴町袖野 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 13 | 前嶋 40 | 勢劔山古墳 | 前嶋市元蛇穴町 | 円 | 直径約 26 m | 横穴式石室 | — | — |
| 14 | 前嶋 216 | 荒武原山古墳 | 前嶋市西大里町 | 円 | 直径 36 m | 袖無型横穴式石室 | 八角形 | 乱石積 |
| 15 | 前嶋 255 | 上横依遺跡 M-2 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 円 | 直径 12 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 乱石積 |
| 16 | 前嶋 256 | 上横依遺跡 M-3 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 円 | 直径 18 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 乱石積 |
| 17 | 前嶋 259 | 上横依遺跡 M-6 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 円 | 直径約 8 m | 袖無型横穴式石室 | 奥押り形 | 乱石積 |
| 18 | 前嶋 266 | 上横依遺跡 M-20 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 方 | 辺 16.4 × 14 m | 袖無型横穴式石室 | — | 乱石積 |
| 19 | 前嶋 267 | 上横依遺跡 M-21 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 円 | 直径約 10 m | 片袖型横穴式石室 | 短椭形 | 乱石積 |
| 20 | 前嶋 268 | 上横依遺跡 M-23 号墳 | 前嶋市神沢の森 | 円 | 直径 15 m | 袖無型横穴式石室? | — | 乱石積 |
| 21 | 前嶋 348 | 塙原保古墳 | 前嶋市山江町 | 円 | 直径約 40 m | 袖無型横穴式石室 | 長台形 | 互目・切削磨 |
| 22 | 前嶋 357 | 清賀・久保遺跡 11 号墳 | 前嶋市斎田町 | 前方後円 | 全長約 57 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 23 | 前嶋 407 | 清賀・久保遺跡 11 号墳 | 前嶋市蛇野町 | — | — | 袖無型横穴式石室 | 長方形 | 互目積(想定) |
| 24 | 前嶋 409 | 庚申塚 1 号墳 | 前嶋市青李子町 | 円 | 直径約 13 m | 袖無型横穴式石室 | 長方形 | 乱石積 |
| 25 | 前嶋 410 | 庚申塚 2 号墳 | 前嶋市青李子町 | 円 | 直径約 16 m | 袖無型横穴式石室 | 台形 | 乱石積 |
| 26 | 前嶋 412 | 今井神古墳群 2 号墳 | 前嶋市今井町 | 円 | 直径約 40 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 互目積? |
| 27 | 前嶋 413 | 今井神古墳群 3 号墳 | 前嶋市今井町 | 円 | 直径約 23 m | 横穴式石室 | — | — |
| 28 | 前嶋 604 | ポンボン塚古墳 | 前嶋市富士見町原之郷 | 円 | 直径 30 m | 袖無型横穴式石室 | 長台形 | 乱石積 |
| 29 | 前嶋 609 | 上庄司塚 2 号古墳 | 前嶋市富士見町櫻塚 | 円 | 直径約 28 m | 袖無型横穴式石室 | 長台形 | 互目積・一部切削 |
| 30 | 前嶋 610 | 上庄司塚 4 号古墳 | 前嶋市富士見町櫻塚 | 円 | 直径約 17 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 切削積 |
| 31 | 前嶋 613 | 陣塚 1 号古墳 | 前嶋市富士見町櫻塚 | 円 | 直径約 16 m | 袖無型横穴式石室 | 羽子板形 | 乱石積 |
| 32 | 前嶋 661 | 岩神米山古墳 | 前嶋市岩神町 | 前方後円 | 全長 70 m | 横穴式石室 | — | — |
| 33 | 前嶋 679 | 时木瀬村 10 号墳 | 前嶋市美井町 | 前方後円 | 後円径 21 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積(想定) |
| 34 | 前嶋 705 | 小原山 1 号古墳 | 前嶋市富士見町石井 | 円 | 直径約 9 m | 横穴式石室 | — | 乱石積? |
| 35 | 前嶋 724 | 上闊 24 号墳 | 前嶋市山王町 | 円 | 直径 25 m | T字型横穴式石室 | T字形 | 乱石積 |
| 36 | 前嶋 858 | 長山古墳 | 前嶋市朝倉町 | 前方後円 | 全長 51.5 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 37 | 前嶋 922 | 大屋敷古墳 | 前嶋市広瀬町 | 前方後円 | 全長 103 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 38 | 前嶋 1121 | 木瀬村 1 号古墳 | 前嶋市木瀬町 | 前方後円 | 全長 60 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 39 | 前嶋 1124 | 木瀬村 4 号古墳 | 前嶋市木瀬町 | 円 | 直径約 10 m | 横穴式石室 | — | — |
| 40 | 前嶋 1374 | 荒砥 285 号古墳 | 前嶋市二之宮町 | 円 | 23 尺 | 横穴式石室 | — | — |
| 41 | 前嶋 1380 | 二之宮 8 号古墳 | 前嶋市二之宮町 | 円 | 直径 20 m 以上 | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・一部切削 |
| 42 | 前嶋 1398 | 荒砥 311 号墳 | 前嶋市今井町 | 円 | 66 尺 | 横穴式石室 | — | — |
| 43 | 前嶋 1557 | 上兩家 1 号古墳 | 前嶋市広瀬町 | 前方後円 | 全長 90 m | 横穴式石室 | — | — |
| 44 | 前嶋 1561 | 孤塚古墳 | 前嶋市山王町 | 円 | 直径 21 m | 横穴式石室 | — | — |
| 45 | 前嶋 1564 | 上闊 16 号墳 | 前嶋市山王町 | 円 | 75 尺 | 横穴式石室 | — | — |
| 46 | 高崎 55 | 下佐野 7 区 3 号墳 | 高崎市下佐野町 | 帆立貝 | 全長 32.5 m | 横穴式石室 | — | — |
| 47 | 高崎 62 | 下佐野 4 号墳 | 高崎市下佐野町 | 円 | 直径 32 × 25 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 48 | 高崎 104 | 五蓋神社古墳 | 高崎市只野町 | 前方後円 | 全長約 45 m | 横穴式石室 | — | — |
| 49 | 高崎 176 | 上石堂古墳 | 高崎市根木戸町 | 円 | 直径約 14 m | 袖無型横穴式石室 | — | — |
| 50 | 高崎 248 | 濱山古墳 | 高崎市柴榮町 | 円 | 直径 40 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | 互目積 |
| 51 | 高崎 329 | 唐橋居古墳 | 高崎市上大郷町 | 円 | 直径 17.8 m | 袖無型横穴式石室 | — | 乱石積? |
| 52 | 高崎 344 | 引間遺跡 2 号墳 | 高崎市上農町 | 円 | — | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 53 | 高崎 593 | 小星山古墳 | 高崎市筑町 | 円 | 直径 25 m | 袖無型横穴式石室 | 短椭形 | — |
| 54 | 高崎 645 | 若宮山古墳 1 号墳 | 高崎市八幡原町 | 円 | 直径 26 m | 袖無型横穴式石室 | — | — |
| 55 | 高崎 700 | 八幡原山古墳 | 高崎市八幡町 | 前方後円 | 全長約 105m | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |

| 側壁石材 | 奥壁石材 | 石材加工 | 時期 | 上毛鷹質 | 古墳群 | 備考 | 参考文献 |
|----------------|--------|------------|-------------|-----------|-----------|----------------|------------------------|
| 角安 | 角安 | 5面削石・切石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 前嶋村2号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有、市史跡 | 1, 5, 8, 11, 13 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 6世紀後半 | 前嶋村1号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有、国史跡 | 5, 12, 13 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 上川瀬村40号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | — | 1, 13 |
| 角安 | 角安 | — | — | 記載漏れ | 朝倉・広瀬古墳群 | — | 13 |
| 角安 | 角安 | 5面削石・切石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 上岡村14号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有、市史跡 | 1, 5, 8, 11, 12, 14 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 上岡村15号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有 | 1, 13 |
| 角安 | 角安 | 1・2・5面削石 | 6世紀 | 上岡村10号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | — | 1, 13 |
| 前庭壁石に土として角安使用 | 切石 | 7世紀後半 | 緑社町8号墳 | 緑社古墳群 | 国史跡 | — | 1, 2, 8, 13 |
| 角安 | 角安 | 切石 | 7世紀中葉 | 緑社町9号墳 | 緑社古墳群 | 国史跡 | 1, 2, 8, 13 |
| 獣安主体、側面に角安充填 | 削石 | 7世紀前半 | 緑社町10号墳 | 緑社古墳群 | — | 1, 8, 13 | |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 緑社町11号墳 | 緑社古墳群 | 埴輪有、御内裏石室・30枚葬 | 1, 2, 5, 8, 11, 12, 13 |
| 角安 | 角安 | — | — | 緑社町15号墳 | 緑社古墳群 | — | 13 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 元緑社村1号墳 | — | — | 13 |
| 輝安主体、美門部等に角安使用 | 切石 | 7世紀末 | 荒砥村150号墳 | — | 県史跡 | — | 12, 18, 19 |
| 輝安? | 輝安・角安 | 未加工 | 7世紀後半 | 荒砥村100号墳 | — | — | 8, 15 |
| 輝安・角安 | 輝安・内安 | 未加工 | 7世紀中葉以降 | 荒砥村102号墳 | — | — | 8, 15 |
| 輝安・角安 | 輝安 | 未加工 | 7世紀後半 | 記載漏れ | — | — | 8, 15 |
| 輝安・角安(想定) | 未加工 | 7世紀後半 | 記載漏れ | — | — | — | 8, 15 |
| 輝安 | 角安 | 未加工 | 7世紀後半 | 記載漏れ | — | — | 8, 15 |
| 輝安・角安 | — | 未加工 | 7世紀末～8世紀初頭 | 荒砥村101号墳 | — | — | 8, 15 |
| 角安 | 角安 | 5面削石・切石 | 7世紀前半 | 記載漏れ | — | 市史跡 | 1, 5, 8, 11, 12, 13 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 桂村19号墳 | — | 埴輪有、片貝神社古墳 | 1, 5, 13 |
| 床面敷石に角安使用 | — | 7世紀 | 清里村10号墳 | — | — | — | 16 |
| 床面敷石に角安使用 | — | 7世紀 | 記載漏れ | — | — | — | 16 |
| 床面敷石に角安使用 | — | 7世紀 | 記載漏れ | — | — | — | 16 |
| 角安 | 輝安・角安 | 5面削石 | 6世紀末 | 荒砥村312号墳 | 今井神社古墳群 | 埴輪有 | 8, 17 |
| 角安(想定) | — | 6世紀中葉以降 | 荒砥村307号墳 | 今井神社古墳群 | — | — | 17 |
| 輝安主体、側面に角安充填 | — | — | 富士見村22号墳 | — | — | — | 1, 7 |
| 角安 | 角安 | 5面削石・切石 | 6世紀後半～未 | 富士見村9号墳 | 神場・庄司原古墳群 | — | 20 |
| 角安主体、一部輝安使用 | 切石 | 7世紀後半 | 富士見村11号墳 | 神場・庄司原古墳群 | — | — | 7, 20 |
| 輝安主体、一部角安使用 | — | 7世紀後半 | 富士見村12号墳 | 神場・庄司原古墳群 | — | — | 20 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 記載漏れ | 前嶋古墳群 | — | 5 |
| 角安(想定) | 5面削石 | — | 木瀬村10号墳 | 小鷗田古墳群 | 埴輪有 | 1, 5, 21 | |
| 輝安 | 角安 | 削石 | 7世紀末～8世紀初頭 | 記載漏れ | — | — | 9, 22 |
| 輝道延天井石に角安使用 | — | 6世紀前半 | 上岡村24号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有 | 8 | |
| 角安 | 角安(想定) | 5面削石 | — | 上川瀬村36号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有 | 1, 5 |
| 角安 | 角安(想定) | 5面削石 | — | 上川瀬村104号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有 | 1, 5 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 木瀬村1号墳 | 木瀬古墳群 | — | 1, 5, 21 |
| 角安(想定) | 3・5面削石 | — | 木瀬村4号墳 | 木瀬古墳群 | — | 1 | |
| 角安(想定) | 未加工 | — | 荒砥村285号墳 | — | — | — | 1 |
| 角安 | 角安 | 5面削石・切石 | 7世紀前半 | 荒砥村291号墳 | 八王子古墳群 | 本書 | — |
| 角安(想定) | 3・5面削石 | — | 荒砥村311号墳 | — | — | — | 1 |
| 角安(想定) | — | — | 上岡村1号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | 埴輪有 | 5 | |
| 角安 | 角安(想定) | 削石 | — | 上岡村9号墳 | 朝倉・広瀬古墳群 | — | 1 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 上岡村16号墳 | — | — | 1 |
| 角安 | 瀬? | 削石 | 6世紀後半 | 佐野村42号墳 | 佐野古墳群 | 埴輪有 | 5, 24, 25 |
| 角安・瀬? | 角安・瀬? | 削石 | 6世紀末 | 佐野村43号墳 | 佐野古墳群 | — | 1, 6, 24 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 削石 | 6世紀後半 | 高崎市223号墳 | — | 埴輪有 | 5, 24 |
| 一部角安使用(想定) | — | — | 八幡村74号墳 | — | 埴輪有 | 23 | |
| 角安 | 角安 | 切石 | — | 大隅村13号墳 | — | — | 6 |
| 輝安主体、部分的に角安使用 | 5面削石 | 7世紀中葉～後半 | 大隅村1号墳 | — | — | — | 2, 26 |
| 自・角安 | — | 8世紀前半 | 記載漏れ | 引間道跡古墳群 | — | — | 24, 27 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 六郷村4号墳 | 筑堤道跡群 | 埴輪有 | 6, 24, 28 |
| 角安 | — | 5面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 若宮古墳群 | 埴輪有 | 24 |
| 側石・間仕切石に角安使用 | 5面削石 | 6世紀末～7世紀初頭 | 八幡村7号墳 | 八幡古墳群 | 国史跡 | 2, 5, 6, 12 | |

| № | 古墳総覽 | 古墳名 | 所在 | 墳形 | 規模 | 主体部 | 玄室平面形 | 石積 |
|-----|----------|----------------|-----------|------|------------------|-----------|-------|----------|
| 56 | 高崎 777 | 筑山天王山古墳 | 高崎市浜野町 | 前方後円 | 全長 53 m | 横穴式石室 | — | — |
| 57 | 高崎 786 | 御賀原山古墳 | 高崎市高賀町 | 前方後円 | 全長 97m | 袖無型横穴式石室 | 長台形 | 互目・一部切頭積 |
| 58 | 高崎 1144 | 和田山天神前遺跡 5 号墳 | 高崎市箕郷町相田山 | 円 | 直径 9 m | 袖無型横穴式石室 | L 字形 | 互目積? |
| 59 | 高崎 1146 | 和田山天神前遺跡 7 号墳 | 高崎市箕郷町相田山 | 円 | 直径 11 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 60 | 高崎 1159 | 和田山天神前遺跡 20 号墳 | 高崎市箕郷町相田山 | 円 | 直径 10 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 61 | 高崎 1161 | 和田山天神前遺跡 22 号墳 | 高崎市箕郷町相田山 | 円 | 直径 11.5 m | 袖無型横穴式石室? | — | 乱石積 |
| 62 | 高崎 1162 | 和田山天神前遺跡 23 号墳 | 高崎市箕郷町相田山 | 円 | 直径 10 m | 袖無型横穴式石室 | — | 乱石積 |
| 63 | 高崎 1258 | しりぬみ古墳 | 高崎市本郷町 | 円 | 直径 16.8 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 64 | — | 植荷塚古墳 | 高崎市上並柳町 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 65 | — | 足門石山 1 号墳 | 高崎市足門町 | 円 | 直径約 18 m | 横穴式石室 | — | 切頭積? |
| 66 | 伊勢崎 100 | 本間古群 6 号古墳 | 伊勢崎市本間町 | 円 | 直径 21 m | 袖無型横穴式石室 | 奥押形 | 互目・通門積 |
| 67 | 伊勢崎 227 | 三郷村 74 号古墳 | 伊勢崎市波志江町 | 円 | 直径 20 m 前後 | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・乱石積 |
| 68 | 伊勢崎 228 | 牛伏第 1 号墳 | 伊勢崎市波志江町 | 円 | 直径約 30 m | 横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・乱石積 |
| 69 | 伊勢崎 229 | 祝堂古墳 | 伊勢崎市波志江町 | 円 | 直径約 30 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形? | 互目積? |
| 70 | 伊勢崎 235 | 八坂遺跡 1 号墳 | 伊勢崎市波志江町 | 円 | 直径 10 m 前後 | 袖無型横穴式石室 | 奥押形? | 乱石積 |
| 71 | 伊勢崎 256 | 御富山 3 号古墳 | 伊勢崎市安堀町 | 円 | 直径 25 × 22.5 m | 横穴式石室 | — | — |
| 72 | 伊勢崎 267 | 御富山 4 号古墳 | 伊勢崎市安堀町 | 円 | — | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・乱石積 |
| 73 | 伊勢崎 268 | 御富山 12 号古墳 | 伊勢崎市安堀町 | 円 | 直径約 15.5 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 74 | 伊勢崎 269 | 西太山下古墳 | 伊勢崎市安堀町 | 円 | — | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 75 | 伊勢崎 270 | 安堀古墳 | 伊勢崎市安堀町 | 前方後円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 76 | 伊勢崎 279 | 竹葉前古墳 | 伊勢崎市稻荷町 | 円 | 直径 19.8 × 18 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形? | 互目積? |
| 77 | 伊勢崎 280 | 杉葉前(今村)古墳 | 伊勢崎市稻荷町 | 円 | 直径 21.5 × 16 m | 袖無型横穴式石室 | — | 互目積 |
| 78 | 伊勢崎 281 | 宮郷村 4 号古墳 | 伊勢崎市稻荷町 | 円 | 直径 17.5 × 13.5 m | 横穴式石室 | — | 互目積 |
| 79 | 伊勢崎 282 | 宮郷村 8 号古墳 | 伊勢崎市稻荷町 | 円 | 直径約 15 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 80 | 伊勢崎 284 | 蛇塚(雷山)古墳 | 伊勢崎市日出町 | 前方後円 | 全長約 56 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 81 | 伊勢崎 289 | 上ノ宮古墳 | 伊勢崎市重上之宮町 | 円? | — | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 82 | 伊勢崎 291 | 清音 1 号古墳 | 伊勢崎市茂辻町 | 円 | 直径 24 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・乱石積 |
| 83 | 伊勢崎 292 | 清音 2 号古墳 | 伊勢崎市茂辻町 | 円 | 直径 40 m | 横穴式石室 | — | — |
| 84 | 伊勢崎 293 | 清音 3 号古墳 | 伊勢崎市茂辻町 | 円 | 直径 18 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・乱石積 |
| 85 | 伊勢崎 294 | 清音 4 号古墳 | 伊勢崎市茂辻町 | 円 | 直径約 14 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 86 | 伊勢崎 296 | 清音 6 号古墳 | 伊勢崎市茂辻町 | 円? | 直径 10 m 前後 | 袖無型横穴式石室 | 奥押形? | 乱石積 |
| 87 | 伊勢崎 302 | 阿佐古塚 | 伊勢崎市南千木町 | 前方後円 | 全長約 45 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 目口積 |
| 88 | 伊勢崎 303 | 黒羽 1 号古墳 | 伊勢崎市南千木町 | 円 | 直径 19.5 m | 横穴式石室 | 椭圓形? | 互目・乱石積 |
| 89 | 伊勢崎 305 | 鶴遺跡 1 号墳 | 伊勢崎市南千木町 | 円 | 直径約 40 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 90 | 伊勢崎 328 | 下谷入古墳 | 伊勢崎市東小保方町 | 前方後円 | 全長 63 m | 横穴式石室 | — | — |
| 91 | 伊勢崎 329 | 下谷入古墳 | 伊勢崎市東小保方町 | 円 | 直径 30 × 12 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目・通門積 |
| 92 | 伊勢崎 333 | 鶴巣古墳 | 伊勢崎市東小保方町 | 円 | 直径 34 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 93 | 伊勢崎 334 | 栗村 16 号古墳 | 伊勢崎市東小保方町 | 円 | 直径 22 m | 横穴式石室 | 椭圓形? | 乱石積 |
| 94 | 伊勢崎 336 | 雷電神社古墳 | 伊勢崎市境与久 | 前方後円 | 全長約 50 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 95 | 伊勢崎 344 | 吉田遺跡 K-2 号古墳 | 伊勢崎市土上瀬名 | 円 | 直径約 16 m | 横穴式石室 | — | — |
| 96 | 伊勢崎 345 | 上瀬名雙兒山古墳 | 伊勢崎市土上瀬名 | 前方後円 | 全長約 130 m | 袖無型横穴式石室 | — | — |
| 97 | 伊勢崎 346 | 上瀬名古墳 | 伊勢崎市土上瀬名 | 円 | — | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 98 | 伊勢崎 347 | 上瀬名二山古墳群 1 号墳 | 伊勢崎市土上瀬名 | 円 | 直径 12 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | — |
| 99 | 伊勢崎 350 | 上瀬名二山古墳群 4 号墳 | 伊勢崎市土上瀬名 | 円 | 約 16 × 15 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | — |
| 100 | 伊勢崎 377 | 栗志村第 33 号古墳 | 伊勢崎市境上武士 | 円 | 直径 24 m | 磐穴系(櫛櫛) | — | — |
| 101 | 伊勢崎 378 | 栗志村第 36 号古墳 | 伊勢崎市境上武士 | 円 | 直径 25 × 22 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 102 | 伊勢崎 576 | 五日牛 2 号墳 | 伊勢崎市五日町 | 円 | 直径約 10 × 14.3 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 103 | 伊勢崎 820 | 今井学園 7-1 号墳 | 伊勢崎市今井町 | 円? | 直径 20 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 乱石積 |
| 104 | 伊勢崎 1171 | 荷輪山古墳 | 伊勢崎市農城町 | 前方後円 | 全長 80 m | 横穴式石室 | — | — |
| 105 | 伊勢崎 1338 | 浅呂村 23 号古墳 | 伊勢崎市南千木町 | 円? | 直径 23.3 m | 横穴式石室 | 長方形? | — |
| 106 | 伊勢崎 1368 | 雙兒古墳 | 伊勢崎市境上武士 | 前方後円 | — | 袖無型横穴式石室 | — | — |
| 107 | 伊勢崎 1463 | 法光寺古墳 | 伊勢崎市境下武士 | 前方後円 | 全長 46 m | 横穴式石室 | — | — |
| 108 | 太田 30 | 沢野村第 96 号古墳 | 太田市高林南町 | 円 | 全長 40 m | 横穴式石室 | — | — |
| 109 | 太田 37 | 沢野村第 102 号古墳 | 太田市高林北町 | 円? | 直径 12.7 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圓形 | 互目積 |
| 110 | 太田 198 | 富沢村第 V 次 14 号墳 | 太田市富沢町 | 帆立貝 | 全長 24.7 m | 横穴式石室 | — | — |
| 111 | 太田 202 | 富沢村第 V 次 18 号墳 | 太田市富沢町 | 円? | — | 不明(削平) | — | — |

| 彌塵石材 | 典聖石材 | 石材加工 | 時期 | 上毛鑑覽 | 古墳群 | 備考 | 参考文献 |
|---------------|--------|--------|------------|----------|-----------|---------|----------------------------|
| 角安(塑定) | | 切石 | 6世紀後半 | 中川村1号墳 | 源尻古墳群 | 埴輪有、市史跡 | 5, 12, 24 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 呂藤村22号墳 | 源良古墳群 | 埴輪有、国史跡 | 2, 5, 6, 11, 12, 24, 30 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀前半 | 串郷村83号墳 | 和田山古墳群 | | 10, 29 |
| 玄門・西門部に角安使用 | | 5面削石 | 7世紀中~後 | 記載漏れ | 和田山古墳群 | | 10, 29 |
| 玄門・西門部に角安使用 | | 5面削石 | 7世紀前~中 | 記載漏れ | 和田山古墳群 | | 10, 29 |
| 角安 | 角安 | — | 7世紀前半 | 記載漏れ | 和田山古墳群 | | 10, 29 |
| 角安 | 輝安 | — | 7世紀前半 | 記載漏れ | 和田山古墳群 | | 10, 29 |
| 西門門柱石に角安使用 | | — | 7世紀後半 | 久留間村14号墳 | — | 県史跡 | 2, 6, 12 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀 | 記載漏れ | — | — | 23 |
| 角安 | 角安 | 切石 | — | 記載漏れ | 足門村西古墳群 | | 31 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀後半 | 記載漏れ | 本郷村古墳群 | | 33 |
| 角安・輝安 | 角安・輝安 | 3・5面削石 | 7世紀後半 | 三郷村74号墳 | 波志江沼西古墳群 | | 2, 7 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 記載漏れ | 牛状古墳群 | | 7, 34 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀中葉 | 三郷村73号墳 | 片田古墳群 | | 7, 34 |
| 自主体、内安数石使用 | | — | — | 記載漏れ | 八坂古墳群 | | 7 |
| 角安(塑定) | | 削石 | 7世紀前半~中頃 | 記載漏れ | 御富士山古墳群 | | 2 |
| 角安・輝安 | 角安・輝安 | 5面削石 | 7世紀初頭 | 記載漏れ | 御富士山古墳群 | 埴輪有 | 2, 7 |
| 角安 | — | 削石 | 6世紀末~7世紀初頭 | 記載漏れ | 御富士山古墳群 | 埴輪有 | 2, 7 |
| 角安 | — | 5面削石 | — | 三郷村85号墳 | 御富士山古墳群 | | 1 |
| 角安 | 角安(塑定) | — | — | 三郷村91号墳 | 御富士山古墳群 | 埴輪有 | 1 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 宮郷村2号墳 | 福荷町古墳群 | 埴輪有 | 7, 35 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 宮郷村3号墳 | 福荷町古墳群 | 埴輪有 | 1, 7, 35 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀代 | 宮郷村4号墳 | 福荷町古墳群 | 埴輪有 | 7, 35 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀代 | 宮郷村8号墳 | 福荷町古墳群 | 埴輪有 | 7, 35 |
| 輝安主体、角安一部使用 | | — | 6世紀末 | 福蓮寺299号墳 | 横塚古墳群 | 埴輪有 | 2, 5, 7 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀中頃 | 記載漏れ | 福荷町古墳群 | | 2, 7 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半 | 茂呂村8号墳 | 清音古墳群 | 埴輪有 | 2, 7, 11, 36 |
| 輝安・角安 | 輝安・角安 | 削石 | 6世紀末~7世紀初頭 | 茂呂村5号墳 | 清音古墳群 | 埴輪有 | 2, 36 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 清音古墳群 | 埴輪有 | 2, 7, 36 |
| 自主体、角安一部使用 | | — | 7世紀初頭 | 記載漏れ | 清音古墳群 | | 7, 36, 38 |
| 自主体、角安鉢石に一石使用 | | — | 7世紀初頭 | 記載漏れ | 清音古墳群 | | 7, 36, 38 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 茂呂村25号墳 | 下茂古墳群 | 埴輪有 | 37 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀初頭~前半 | 記載漏れ | 羽黒古墳群 | 埴輪有 | 2, 7 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀代 | 茂呂村27号墳 | 鶴古墳群 | | 7 |
| 輝安・角安(塑定) | | 削石 | 6世紀後半 | 東村22号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 5, 32, 39 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀後半 | 東村38号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 1, 2, 7 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀末 | 東村8号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有、市史跡 | 2, 7, 11, 12, 32 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀前半 | 東村16号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 2, 7, 32 |
| 角安 | 輝安 | 削石 | 6世紀末~7世紀初頭 | 采女村1号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有、市史跡 | 1, 2, 12 |
| 角安(塑定) | 角安(塑定) | — | — | 記載漏れ | 下谷・上瀬名古墳群 | | 40 |
| 角安 | — | — | 6世紀後半 | 采女村11号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 2(使用無)、5 |
| 輝安主体、角安一部使用 | | 削石 | — | 采女村30号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 1, 7, 41 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半 | 采女村20号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 1, 7, 42 |
| 角安・金 | 角安・金 | 削石? | — | 采女村41号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 1, 7, 42 |
| 石室内に角安 | | — | — | 剛志村33号墳 | 武士古墳群 | | 7, 41 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 剛志村36号墳 | 武士古墳群 | 埴輪有 | 7, 41 |
| 輝安主体、角安一部使用 | | 5面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 地藏山古墳群 | | 7, 43 |
| 輝安主体、角安一部使用 | | 削石 | 6世紀後半 | 福蓮寺187号墳 | 椎助山古墳群 | 埴輪有 | 5, 44 |
| 角安 | 角安(塑定) | 5面削石 | 6世紀後半 | 茂呂村23号墳 | 下茂古墳群 | 埴輪有 | 45 |
| 角安 | 角安 | — | — | 采女村10号墳 | 下谷・上瀬名古墳群 | 埴輪有 | 5, 41 |
| 角安 | 角安 | 切石 | — | 剛志村67号墳 | 武士古墳群 | 埴輪有 | 5 |
| 角安一部使用 | | — | — | 赤塚村172号墳 | — | — | 46 |
| 角安(塑定) | 角安(塑定) | 5面削石 | 6世紀後半 | 沢野村95号墳 | 森林古墳群 | 94号墳の誤り | 47 |
| 角安 | 角安・自 | 3・5面削石 | 7世紀後半 | 沢野村102号墳 | 高林古墳群 | | 2, 7, 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 窪沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富滝古墳群 | | 47 |

| № | 古墳総覽 | 古墳名 | 所在 | 墳形 | 規模 | 主体部 | 玄室平面形 | 石積 |
|-----|---------|-----------------|-----------|-------|-----------------------|-----------|-------|----------|
| 112 | 太田 204 | 富沢(第61次)19号墳 | 太田市牛潟町 | 帆立貝 | 全長 16.5 m 直径約 15 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 113 | 太田 452 | 兜塚古墳 | 太田市新田上田町 | 円 | — | — | — | — |
| 114 | 太田 455 | 石川古墳 | 太田市新田中江田町 | 削平 | — | — | — | — |
| 115 | 太田 456 | 矢拔神社古墳 | 太田市新田中江田町 | 前方後円 | — | — | — | — |
| 116 | 太田 457 | 久保佐神社古墳 | 太田市新田高尾町 | 削平 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 117 | 太田 459 | 二ツ塚古墳 | 太田市新田下江田町 | 前方後円 | 全長約 50 m | 横穴式石室 | — | — |
| 118 | 太田 778 | 富沢古墳群第 9 号墳 | 太田市富沢町 | 円 | 直径 25 m | — | — | — |
| 119 | 太田 782 | 富沢(古墳群)第 13 号墳 | 太田市富沢町 | 円 | 直径 12 m | 横穴式石室 | — | — |
| 120 | 太田 784 | 富沢古墳群第 16 号墳 | 太田市富沢町 | 方? | — | 横穴式石室? | — | — |
| 121 | 太田 786 | 富沢(古墳群)第 18 号墳 | 太田市富沢町 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 122 | 太田 1089 | 小角山前 1 号墳 | 太田市世良田町 | 前方後円 | 全長 72.7 m | 横穴式石室 | — | — |
| 123 | 太田 1090 | 小角山前 2 号墳 | 太田市世良田町 | 前方後円 | 全長 90.9 m | 横穴式石室 | — | — |
| 124 | 太田 1143 | 電塚古墳 | 太田市新田下山郷町 | 円 | 252 尺 | 円袖型横穴式石室 | — | 互目積・一部切引 |
| 125 | 鶴林 20 | 測ノ上塚 | 鶴林市羽附町 | 円 | 直径約 30 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 126 | 渋川 8 | 金井古墳 | 渋川市金井 | 円 | 直径 14 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 切引積 |
| 127 | 渋川 17 | かね塚古墳 | 渋川市渋川(入沢) | 円? | — | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 128 | 渋川 18 | 虚堂破壊古墳 | 渋川市渋川(北原) | 円 | 直径 13 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | — |
| 129 | 渋川 121 | 吉登村 5 号古墳 | 渋川市有馬 | 円 | 直径 7.7 × 7 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 130 | 渋川 122 | 吉登村 6 号古墳 | 渋川市有馬 | 円 | 直径 5.0 × 5 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 131 | 渋川 135 | 平田南原通路 13 号墳 | 渋川市半田 | 円 | 直径 6.35 × 8.12 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 132 | 渋川 136 | 平田南原通路 14 号墳 | 渋川市半田 | 円 | 直径 7.13 × 7.02 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 133 | 渋川 145 | 平田南原通路 23 号墳 | 渋川市半田 | 円 | 直径 6.6 × 5.92 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 134 | 渋川 147 | 平田南原通路 25 号墳 | 渋川市半田 | 円 | 直径約 6 × 7 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 135 | 吉岡 22 | 小倉山中塚 1 号墳 | 吉岡町小倉 | 円 | 直径 8.2 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 136 | 吉岡 23 | 小倉山中塚 2 号墳 | 吉岡町小倉 | 円 | 直径 10.5 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 137 | 吉岡 24 | 小倉山中塚 3 号墳 | 吉岡町小倉 | 円 | 直径 8.2 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 138 | 吉岡 47 | 滝沢古墳 | 吉岡町下野田 | 円 | 直径 12.6 × 11.8 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 139 | 吉岡 65 | 南下 A 号古墳 | 吉岡町南下 | 円 | 直径 27 × 20 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 切引積 |
| 140 | 吉岡 66 | 南下 B 号古墳 | 吉岡町南下 | 円 | 直径約 30 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 141 | 吉岡 69 | 南下 C 号古墳 | 吉岡町南下 | 方? | 直径約 17 m | 円袖型横穴式石室 | 椭形 | 切引積 |
| 142 | 吉岡 94 | 三津原古墳 | 吉岡町大久保 | 八角形 | 全長 23.8 m | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 乱石積 |
| 143 | 玉村 2 | 小泉大塚越 1 号墳 | 玉村町販倉 | 円 | 直径約 20 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 144 | 玉村 3 | 小泉大塚越 2 号墳 | 玉村町販倉 | 円 | 直径約 25 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 145 | 玉村 4 | 小泉大塚越 3 号墳 | 玉村町販倉 | 前方後円 | 全長 46 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 146 | 玉村 7 | 小泉大塚越 6 号墳 | 玉村町販倉 | 円 | 直径約 16 m | 袖無型横穴式石室 | 長台形 | 乱石積 |
| 147 | 玉村 8 | 小泉大塚越 7 号墳 | 玉村町販倉 | 円 | 直径約 16 m | 袖無型横穴式石室 | — | 乱石積 |
| 148 | 玉村 11 | 小泉大塚越 10 号墳 | 玉村町小泉 | 円 | 直径約 18 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 通日積 |
| 149 | 玉村 50 | 小泉長塚 1 号古墳 | 玉村町小泉 | 前方後円? | — | 円袖型横穴式石室 | 切引積 | 互目積 |
| 150 | 玉村 107 | 八王子塚古墳 | 玉村町越越 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 151 | 玉村 124 | 社宮島古墳 | 玉村町南玉 | 円 | — | 袖無型横穴式石室? | — | — |
| 152 | 玉村 126 | 福舟 2 号古墳 | 玉村町箱石 | 円 | — | 袖袖型横穴式石室? | — | — |
| 153 | 玉村 158 | 川井鶴崎山古墳 | 玉村町川井 | 帆立貝 | 全長 35 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 154 | 玉村 161 | 銀根塚 15 号古墳 | 玉村町川井 | 円 | 直径約 18 m | 円袖型横穴式石室 | 羽子板形 | 互目・通日積 |
| 155 | 玉村 163 | 芝根原第 17 号古墳 | 玉村町川井 | 円 | 直径約 16 m | 横穴式石室 | 奥押り形 | 通日積 |
| 156 | 玉村 171 | 淨土山古墳 | 玉村町下深木 | 前方後円 | 全長 54 m | 円袖型横穴式石室 | 椭形 | 互目積 |
| 157 | 玉村 176 | 萩塚古墳 | 玉村町下茂木 | 円 | 直径約 28 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 158 | 玉村 179 | 玉村町第 3 号古墳 | 玉村町角渕 | 円 | 直径約 22 m | 円袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 159 | 玉村 190 | 玉村町第 14 号古墳 | 玉村町角渕 | 円 | 直径 12 × 9 m | 袖無型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 160 | 玉村 191 | 玉村町第 15 号古墳 | 玉村町角渕 | 円 | 直径約 18 m | 袖無型横穴式石室 | 羽子板形 | 互目積 |
| 161 | 玉村 196 | 玉村町第 37 号古墳 | 玉村町角渕 | 円 | 直径約 10 m | 袖無型横穴式石室 | 切引積 | 互目積 |
| 162 | 板倉 1 | 鶴母子櫛穴墓群第 1 号櫛穴墓 | 板倉町海老瀬 | 無埴丘 | — | 袖穴墓 | 羽子板形 | — |
| 163 | 板倉 2 | 鶴母子櫛穴墓群第 2 号櫛穴墓 | 板倉町海老瀬 | 無埴丘 | — | 袖穴墓 | 椭圆形 | — |
| 164 | 板倉 3 | 鶴母子櫛穴墓群第 3 号櫛穴墓 | 板倉町海老瀬 | 無埴丘 | — | 袖穴墓 | — | — |
| 165 | 板倉 4 | 鶴母子櫛穴墓群第 4 号櫛穴墓 | 板倉町海老瀬 | 無埴丘 | — | 袖穴墓 | 羽子板形 | — |
| 166 | 板倉 11 | 道明山古墳 | 板倉町岩田 | 前方後円 | 全長 36 m | 横穴式石室 | — | — |
| 167 | 板倉 12 | 舟山古墳 | 板倉町岩田 | 前方後円 | 全長約 66 m | 横穴式石室 | — | — |

| 彌塵石材 | 古典石材 | 石材加工 | 時期 | 上毛鑿覽 | 古墳群 | 備考 | 参考文献 |
|---------------|--------|-------------|-------------|----------|---------|----------|-----------------|
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 5, 47, 49 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 7世紀中葉 | 扇町11号墳 | 六供古墳群 | | 48 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | 木崎町1号墳 | — | 埴輪有 | 48 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | 木崎町2号墳 | — | | 48 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | 木崎町3号墳 | — | | 5, 48 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀初頭 | 木崎町5号墳 | — | 埴輪有 | 5, 48 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 富沢古墳群 | | 47 |
| 角安 | 角安 | — | — | 世良田村36号墳 | 小舟田古墳群 | 埴輪有 | 5 |
| 角安 | 角安 | — | — | 世良田村37号墳 | 小舟田古墳群 | 埴輪有 | 5 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | 宝室村48号墳 | — | | 1 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | — | 埴輪有 | 7, 50, 63 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀末 | 記載漏れ | — | 市史跡 | 1, 2, 6, 12 |
| 漢門に角安切石使用 | — | — | 8世紀初頭 | 記載漏れ | — | | 2, 6 |
| 角安・輝安 | 切石 | 7世紀末～8世紀初頭 | 浜山町1号墳 | — | — | 県史跡 | 1, 2, 6, 12 |
| 輝安主体。一部角安使用 | — | — | 古卷村5号墳 | — | — | | 6 |
| 輝安主体。一部角安使用 | — | — | 古卷村6号墳 | — | — | | 6 |
| 輝安・角安 | 輝安・角安 | — | 7世紀 | 記載漏れ | — | | 6, 51 |
| 輝安・角安 | 輝安・角安 | — | 7世紀 | 記載漏れ | — | | 6, 51 |
| 輝安・角安 | 輝安・角安 | — | 7世紀 | 記載漏れ | — | | 6, 51 |
| 漢門・側壁の一部に角安使用 | — | — | 7世紀初期～中葉 | 記載漏れ | 有馬堂山古墳群 | | 6, 53 |
| 側壁・漢門の一部に角安使用 | — | — | 7世紀代 | 記載漏れ | 有馬堂山古墳群 | | 6, 53 |
| 漢門の一部に角安使用 | — | — | — | 記載漏れ | 有馬堂山古墳群 | | 6, 53 |
| 角安・自 | 角安・自 | 削石 | 7世紀中葉 | 明治村13号墳 | 小舟古墳群? | 町史跡 | 6, 12, 54 |
| 角安 | 角安 | 切石 | 7世紀末～8世紀初頭 | 明治村54号墳 | 南下古墳群 | 町史跡 | 2, 3, 6, 12, 52 |
| 輝安主体。一部角安使用 | — | — | 7世紀中葉 | 明治村50号墳 | 南下古墳群 | 町史跡 | 3, 12, 52 |
| 角安 | 角安 | 切石 | 7世紀末～8世紀初頭 | 明治村41号墳 | 南下古墳群 | | 2, 3, 4, 6 |
| 漢門に角安切石使用 | 切石 | 7世紀後半 | 鶴寄村42号墳 | — | — | 県史跡 | 6, 55 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | | 6, 56, 58, 60 |
| 角安 | 角安・縁 | 5面削石 | 7世紀 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | | 6, 56, 58, 60 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀中葉 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | 埴輪有 | 5, 6, 56, 58 |
| 河原石主体。一部角安使用 | 削石 | 6世紀中葉 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | 埴輪有 | | 56, 58 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀中葉 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | 埴輪有、1号石室 | 56, 57, 58 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀中葉 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | | 58 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | | 58 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | 埴輪有 | 58, 59 |
| 角安 | — | 5面削石 | — | 上闘村36号墳 | — | 埴輪有 | 1 |
| 一部角安使用 | — | — | 6世紀後半 | 記載漏れ | 鶴石古墳群 | | 61 |
| 角安 | — | 削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 小泉古墳群 | 埴輪有 | 61 |
| 角安 | 角安 | 3・5面削石 | 6世紀後半 | 芝根村7号墳 | 川井古墳群 | 埴輪有 | 2, 5, 6, 60 |
| 角安 | 角安 | 3・5面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 川井古墳群 | 埴輪有 | 2, 6, 60 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀 | 記載漏れ | 川井古墳群 | 埴輪有 | 2, 6, 60 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 芝根村1号墳 | 漢木古墳群 | 埴輪有 | 5, 6, 11, 60 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀末～7世紀初頭 | 記載漏れ | 漢木古墳群 | 埴輪有 | 2, 6, 11, 60 |
| 角安・牛・輝安 | 5面削石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 玉村町3号墳 | 漢木古墳群 | — | | 2, 6, 60 |
| 自・角安ほか | — | — | 6世紀後半 | 玉村町14号墳 | 漢木古墳群 | 埴輪有 | 2, 6, 60 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半 | 玉村町15号墳 | 漢木古墳群 | 埴輪有、移築 | 2, 6, 60 |
| 角安 | 輝安 | 1・3面削石 | 6世紀後半 | 記載漏れ | 漢木古墳群 | 埴輪有 | 2, 6, 60 |
| 床面に角安敷設 | — | — | 7世紀後半 | 記載漏れ | 鶴母子横穴墓群 | 町史跡 | 7, 12, 63 |
| 床面に角安敷設 | — | — | 7世紀後半 | 記載漏れ | 鶴母子横穴墓群 | 町史跡 | 7, 12, 63 |
| 床面に角安敷設 | — | — | 7世紀後半 | 記載漏れ | 鶴母子横穴墓群 | 町史跡 | 7, 12, 63 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 5面削石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 伊奈良村3号墳 | — | 埴輪有、町史跡 | 5, 7, 12, 63 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 伊奈良村2号墳 | — | 埴輪有、町史跡 | 5, 7, 12, 63 |

| No. | 古墳総覽 | 古墳名 | 所在 | 墳形 | 規模 | 主体部 | 玄室平面形 | 石積 |
|-----|--------|----------------|---------|------|----------------------|------------|-------|----------|
| 168 | 板倉 13 | 筑波山古墳 | 板倉町岩田 | 前方後円 | 全長 53.5m 直径約 10 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 169 | 明和 3 | 斗合原墳古墳 | 明和町斗合田 | 円 | — | — | — | — |
| 170 | 明和 4 | 斗合原荷塚古墳 | 明和町斗合田 | 円 | 直径 10 × 5 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 171 | 明和 5 | 江黒古墳 | 明和町上江黒 | 円 | 直径約 10 m | — | — | — |
| 172 | 千代田 25 | 富士原古墳群 4 号墳 | 千代田町舞木 | — | — | 横穴式石室 | — | — |
| 173 | 千代田 31 | 富士原古墳群 10 号墳 | 千代田町舞木 | — | — | — | — | — |
| 174 | 千代田 32 | 富士原古墳群 11 号墳 | 千代田町舞木 | — | — | — | — | — |
| 175 | 千代田 33 | 米山巣籠古墳 | 千代田町赤岩 | 円 | 直径 30 m | 横穴式石室 | 不明 | 互目積 |
| 176 | 千代田 37 | 赤岩巣籠古墳 | 千代田町赤岩 | 前方後円 | 全長 95.4 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 177 | 大泉 6 | 尊光寺付近遺跡 2 号墳 | 大泉町仙石 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 178 | 大泉 7 | 尊光寺付近遺跡 3 号墳 | 大泉町仙石 | 円 | 直径約 27 m | 横穴式石室 | — | — |
| 179 | 大泉 8 | 尊光寺付近遺跡 3 号墳 | 大泉町仙石 | 円 | 直径約 22 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 180 | 大泉 70 | 古海松塚古墳群 39 号墳 | 大泉町古海 | 円 | 直径 30 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 181 | 大泉 74 | 古海松塚古墳群 43 号墳 | 大泉町古海 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 182 | 大泉 78 | 古海松塚古墳群 47 号墳 | 大泉町古海 | 円 | 直径約 15 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 183 | 大泉 80 | 古海松塚古墳群 49 号墳 | 大泉町古海 | 円 | 直径約 10 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 184 | 大泉 88 | 古海松塚古墳群 57 号墳 | 大泉町古海 | 円 | 直径 16 m | 内袖型横穴式石室 | — | — |
| 185 | 大泉 90 | 古海松塚古墳群 59 号墳 | 大泉町古海 | 円 | 直径 16 m | 片袖型横穴式石室? | 椭圆形? | 乱石積? |
| 186 | 大泉 116 | 古水地内 7番古墳 | 大泉町古水 | 円 | 直径 15 m | 横穴式石室 | — | — |
| 187 | 大泉 117 | 古水地内 8番古墳 | 大泉町古水 | 円 | 直径 16 m | 横穴式石室 | — | — |
| 188 | 大泉 147 | 源中都古墳 | 大泉町寄木 | 円 | 直径 25 × 32 m | 横穴式石室 | — | — |
| 墳玉集 | | | | | | | | |
| 189 | — | 上里塙尾山古墳 | 上里町神保原 | 円 | 直径 38 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 190 | — | つつじヶ丘地区 29 号地 | 上里町 | 円 | 直径 25 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 191 | — | つつじヶ丘地区 30 号地 | 上里町 | 円 | — | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 192 | — | 上里 5 号古墳 | 上里町神保原 | 円? | 直径 11 × 12 m | 内袖型横穴式石室? | 椭圆形 | 互目・通日積? |
| 193 | — | 三田町内 1 号墳 | 上里町七本木 | 円 | 直径 22 m | 横穴式石室 | — | — |
| 194 | — | 下野堂園拓 1 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 22.7 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 195 | — | 下野堂御手山古墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 20 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積? |
| 196 | — | 森西 1 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 21 × 19 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 197 | — | 三田支都第 6 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 42 m | 横穴式石室 | — | — |
| 198 | — | 三田支都第 12 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 22 m | 横穴式石室 | — | — |
| 199 | — | 三田支都第 13 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 12 m | 内袖型横穴式石室 | — | — |
| 200 | — | 三田支都第 14 号墳 | 本庄市下野堂 | 円 | 直径 12 m | 横穴式石室 | — | — |
| 201 | — | 笛割山古墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 25 m | 横穴式石室 | — | — |
| 202 | — | 山の神古墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 41 m | 横穴式石室 | — | — |
| 203 | — | 蛭子塚 6 号墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 35 m | 横穴式石室 | — | — |
| 204 | — | 小鳥御手山古墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 42 m | 内袖型横穴式石室? | 椭圆形 | 互目積・一部削除 |
| 205 | — | 前の山古墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 30 m 前後 | 横穴式石室 | 椭圆形? | — |
| 206 | — | 西五十子古墳群 ST-22 | 本庄市西五十子 | 円 | 直径 19 m 前後 | (横穴式石室) | — | — |
| 207 | — | 坊主山古墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 36 m | 横穴式石室 | — | — |
| 208 | — | 堀場 2 号墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 12.5 m | 横穴式石室 (想定) | — | — |
| 209 | — | 堀場 3 号墳 | 本庄市小島 | 方 | 直径 15 m | 横穴式石室 (想定) | — | — |
| 210 | — | 堀場 4 号墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 18 m | 横穴式石室 | — | — |
| 211 | — | 堀場 8 号墳 | 本庄市小島 | 円 | 直径 21 m | 横穴式石室 (想定) | — | — |
| 212 | — | 三夜堂古墳 | 本庄市中央 | — | — | — | — | — |
| 213 | — | 本庄 41 号古墳 (壕合) | 本庄市東台 | 円 | 直径 10 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積 |
| 214 | — | 本庄 42 号古墳 (壕合) | 本庄市東台 | 円 | 直径 18 ~ 20 m | 横穴式石室 | — | — |
| 215 | — | 本庄 43 号古墳 (壕合) | 本庄市東台 | 円 | 直径 7 m 以上 | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通日積? |
| 216 | — | 裏谷古墳 | 本庄市栗崎 | 円 | 直径約 30 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 217 | — | オトニガ塚古墳 | 本庄市栗森 | 円 | 直径 20 m | 横穴式石室 (推定) | 椭圆形 | — |
| 218 | — | 御堂坂 1 号墳 | 本庄市日の出 | 円 | 直径 18 m 前後 | 内袖型横穴式石室? | 椭圆形 | 互目積? |
| 219 | — | 御堂坂 2 号墳 | 本庄市日の出 | 円 | 直径 18 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 220 | — | 西原古墳 | 本庄市重富田 | 円 | 直径 28 m | 内袖型横穴式石室? | 椭圆形 | 通日積 |
| 221 | — | 水屋 2 号墳 | 深谷市香掛 | 円 | 直径 11 m | 横穴式石室 | — | — |
| 222 | — | お手山古墳 | 深谷市同 | 帆立貝 | 全長 49.5 m | 横穴式石室 | — | — |

| 彫刻石材 | 美豊石材 | 石材加工 | 時期 | 上毛鑑覽 | 古墳群 | 備考 | 参考文献 |
|--------|--------|------|-------------|---------|---------|-------|------------------|
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀後半～7世紀初頭 | 伊奈良村1号墳 | — | 町史跡 | 1, 5, 7, 12, 63 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 削石? | — | 記載漏れ | 斗合田古墳群 | 64 | |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 千江田村2号墳 | 斗合田古墳群 | — | 1, 7, 64 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 削石? | — | 千江田村1号墳 | — | 町史跡 | 5, 7, 12, 63, 64 |
| 角安 | 角安 | — | — | 記載漏れ | 富士原古墳群 | — | 7 |
| 角安 | 角安 | — | — | 記載漏れ | 富士原古墳群 | — | 7 |
| 角安 | 角安 | — | — | 記載漏れ | 富士原古墳群 | — | 7 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | — | 記載漏れ | — | 安樂寺境内 | 1, 7, 65 |
| 角安 | 輝安 | 削石 | 6世紀末 | 永楽村1号墳 | 櫛山古墳群 | 埴輪有 | 4, 65, 66 |
| 角安 | — | 5面削石 | 7世紀前半 | 記載漏れ | 仙石古墳群 | — | 7, 68 |
| 角安 | — | 5面削石 | 7世紀前半 | 記載漏れ | 仙石古墳群 | — | 7, 68 |
| 角安 | 自 | 5面削石 | 7世紀前半 | 記載漏れ | 仙石古墳群 | — | 7, 68 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | — | 7, 69 |
| 角安・自 | — | 削石 | 6世紀後半～7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | 埴輪有 | 7, 69 |
| 角安 | 角安・自 | 削石 | 6世紀後半～7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | — | 7, 69 |
| 角安・自 | 角安・自 | 削石? | 7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | — | 7, 69 |
| 角安・自 | 角安・自 | 削石? | 6世紀後半～7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | 埴輪有 | 7, 69 |
| 角安 | 角安 | 削石? | 6世紀後半～7世紀前半 | 記載漏れ | 古海松塚古墳群 | — | 7, 69 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | 記載漏れ | 古水古墳群 | — | 7, 67 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | 記載漏れ | 古水古墳群 | — | 7, 67 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 7世紀後半 | 大川村23号墳 | — | — | 7, 67 |

| | | | | | | | |
|---------|--------|----------|------------|---|---------|----------------|----------------|
| 角安 | 角安 | 3・4・5面削石 | 7世紀後半 | — | 旭・小島古墳群 | 町史跡 | 1, 71, 72 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | — | 旭・小島古墳群 | — | 71 |
| 自・角安 | — | — | — | — | 旭・小島古墳群 | — | 71 |
| 角安 | 角安(想定) | 削石 | 7世紀前半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 71, 72 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 削石 | 7世紀後半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 71, 72 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀後半? | — | 旭・小島古墳群 | — | 71, 78 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀前半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 71, 82 |
| 自・角安 | — | — | — | — | 旭・小島古墳群 | 埴輪有 | 81 |
| 角安 | — | 切石 | — | — | 旭・小島古墳群 | 山本5号墳 | 71, 77 |
| 角安 | 角安 | — | — | — | 旭・小島古墳群 | 山本2号墳 | 71, 77 |
| 角安・片 | 角安・片 | 削石 | — | — | 旭・小島古墳群 | 山本3号墳 | 71, 77 |
| 自・角安 | — | 削石 | — | — | 旭・小島古墳群 | 山本4号墳 | 71, 77 |
| 角安(想定) | — | — | 6世紀末 | — | 旭・小島古墳群 | 埴輪有, 甲斐跡136号古墳 | 71, 80 |
| 角安(想定) | — | — | 6世紀末 | — | 旭・小島古墳群 | 埴輪有, 甲斐跡137号古墳 | 71, 80 |
| 角安(想定) | — | — | — | — | 旭・小島古墳群 | — | 71 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀末 | — | 旭・小島古墳群 | 埴輪有 | 70, 71, 75 |
| 自・角安 | 自・角安 | 削石 | 6世紀末 | — | 旭・小島古墳群 | 小島3号墳 | 79 |
| 周船中より角安 | — | — | — | — | 西五十子古墳群 | — | 85 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀末 | — | 旭・小島古墳群 | 埴輪有 | 83 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 7世紀前半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 76 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 8世紀初頭 | — | 旭・小島古墳群 | — | 76 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀後半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 71, 76 |
| 角安(想定) | — | — | 7世紀前半 | — | 旭・小島古墳群 | — | 76 |
| 角安(想定) | — | — | — | — | — | — | 73, 83 |
| 角安 | 角安 | 4・5面削石 | 7世紀中葉 | — | 瑞合古墳群 | — | 70, 71, 74, 83 |
| 角安(想定) | — | 不明 | 7世紀 | — | 瑞合古墳群 | — | 74, 83 |
| 角安 | 角安 | 不明 | 7世紀 | — | 瑞合古墳群 | — | 70, 71, 74, 83 |
| 角安 | 片 | 削石 | — | — | 大久保山古墳群 | — | 1, 70, 83 |
| 角安(想定) | — | — | — | — | 鶴森古墳群 | — | 73 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半以降 | — | 御堂坂古墳群 | — | 71, 84 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀前半 | — | 御堂坂古墳群 | — | 71, 86 |
| 自・角安 | 自・角安 | 不明 | 7世紀前半 | — | 東富田古墳群 | — | 71 |
| 角安 | 角安(想定) | — | — | — | 水窪古墳群 | — | 70, 71, 87, 88 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 6世紀末～7世紀初頭 | — | 向古墳群 | 市史跡 | 5, 71, 89 |

| № | 古墳総覽 | 古墳名 | 所在 | 墳形 | 規模 | 主体部 | 玄室平面形 | 石積 |
|-----|------|--------------|---------|------|-------------|-----------|-------|----------|
| 223 | — | 四十板6号墳 | 深谷市岡 | 円 | 直径 10.2 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積? |
| 224 | — | 四十板9号墳 | 深谷市岡 | 円 | 直径 6.5 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積? |
| 225 | — | 寅船荷塚古墳 | 深谷市岡 | 前方後円 | 全長 51 m | 横穴式石室 | — | — |
| 226 | — | 浅間山古墳 | 深谷市岡 | 円 | 直径 35 m | 横穴式石室 | — | — |
| 227 | — | 熊野山内八幡塚古墳 | 深谷市岡 | 円 | 直径 33 m | 横穴式石室 | 椭圆形? | — |
| 228 | — | 上崩田9号墳 | 深谷市上増田 | 円 | 直径 20 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 229 | — | 平塚古墳 | 深谷市岡 | — | — | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 230 | — | 木の本3号墳 | 深谷市原郷 | 円 | 直径 20 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 231 | — | 飯塚4号墳 | 熊谷市永井太田 | 円 | 直径 11.9 m | 内袖型横穴式石室? | 椭圆形 | 通口積 |
| 232 | — | 飯塚10号墳 | 熊谷市永井太田 | 円 | 直径 14.7 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 233 | — | 飯塚14号墳 | 熊谷市永井太田 | 円 | 直径 16 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 234 | — | 飯塚15号墳 | 熊谷市永井太田 | 円 | 直径 14.6 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 235 | — | 中条大塚古墳 | 熊谷市下中条 | 円 | 直径 35 m | 横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積・一部切削 |
| 236 | — | 熊谷56号墳(肥塚古墳) | 熊谷市肥塚 | 円 | 直径 22 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 237 | — | 王子古墳 | 熊谷市 | 円 | 直径 28.5 m | 横穴式石室 | — | — |
| 238 | — | 白山古墳 | 熊谷市長野 | 円 | 直径 50 m | 横穴式石室 | 椭圆形? | — |
| 239 | — | 酒巻1号墳1号石室 | 行田市酒巻 | 前方後円 | 全長約 46m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 240 | — | 酒巻1号墳2号石室 | 行田市酒巻 | 前方後円 | 全長約 46m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 241 | — | 酒巻3号墳 | 行田市酒巻 | 円? | — | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 242 | — | 酒巻5号墳 | 行田市酒巻 | — | — | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積? |
| 243 | — | 酒巻6号墳 | 行田市酒巻 | 帆立貝 | 全長 15 m | 袖無型横穴式石室 | 剖面形 | — |
| 244 | — | 酒巻14号墳 | 行田市酒巻 | 円 | 直径 42 m | 横穴式石室 | — | — |
| 245 | — | 酒巻15号墳 | 行田市酒巻 | 前方後円 | 全長 34.2 m | 横穴式石室 | 剖面形 | — |
| 246 | — | 酒巻21号墳 | 行田市酒巻 | 円 | 直径 27 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 通口積 |
| 247 | — | 齊柔5号古墳 | 行田市齊柔 | 円 | 直径 19 m | — | — | — |
| 248 | — | 鉢庭山古墳 | 行田市埼玉 | 前方後円 | 全長 107 m | 横穴式石室 | — | — |
| 249 | — | 若王子古墳 | 行田市埼玉 | 前方後円 | 全長 103 m | 横穴式石室 | — | — |
| 250 | — | 地藏塚古墳 | 行田市若小玉 | 方 | 辺 28 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 切削積 |
| 251 | — | 八幡山古墳 | 行田市若小玉 | 円 | 直径 74 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 切削積 |
| 252 | — | 小御園塚古墳 | 行田市小御 | 円 | 直径 20 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 253 | — | 小松1号墳 | 伊豆市小松 | — | — | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 254 | — | 小沼耕塚2号墳 | 加須市上尾尾 | 円 | 直径 15 m | 横穴式石室 | — | — |
| 255 | — | 宮登古墳(飯田9号墳) | 鴻巣市宮前 | 円 | 直径 25 × 20m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・切削積 |
| 256 | — | 菖蒲天王山塚古墳 | 久喜市菖蒲町 | 前方後円 | 全長 107 m | 横穴式石室 | — | — |
| 257 | — | 塚内1号墳 | 春日部市内牧 | 円? | — | 横穴式石室 | — | — |
| 258 | — | 塚内2号墳 | 春日部市内牧 | 円 | 直径 15 m | 横穴式石室 | — | — |
| 259 | — | 塚内7号墳 | 春日部市内牧 | 円 | 直径 17 m | 横穴式石室 | — | — |
| 260 | — | 塚内8号墳 | 春日部市内牧 | — | — | 横穴式石室 | — | — |
| 261 | — | 日沼2号墳 | 杉戸町日沼 | 前方後円 | 全長 43 m | 横穴式石室 | — | — |
| 262 | — | 日沼3号墳 | 杉戸町日沼 | 円 | 直径 20 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目・通口積 |
| 263 | — | 日沼6号墳 | 杉戸町日沼 | 円 | 直径 23 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 乱石積 |
| 264 | — | 日沼14号墳 | 杉戸町日沼 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 柏木集 | | | | | | | | |
| 265 | — | 外城字中台1号墳 | 小山市外城 | 円 | — | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 266 | — | 乙女雷電神社古墳 | 小山市乙女 | 円 | 直径 30 m | 内袖型横穴式石室 | 隅丸長方形 | 互目積? |
| 美誠集 | | | | | | | | |
| 267 | — | 六箇頭古墳 | 五霞町川妻 | 円 | 直径 30 m | 横穴式石室 | 複室椭圆形 | 互目積? |
| 268 | — | 寺山跡1号墳 | 五霞町川妻 | 円? | — | — | — | — |
| 269 | — | 前林台古墳 | 古河市前林 | 円 | — | 横穴式石室 | — | — |
| 270 | — | 久能向原1号墳 | 古河市久能 | 円 | 直径 36 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |
| 271 | — | 久能向原2号墳 | 古河市久能 | 円 | 直径 26 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | — |
| 272 | — | 久能向原3号墳 | 古河市久能 | 円 | 直径 36 m | 内袖型横穴式石室 | 椭圆形 | 互目積 |

※1. 本一覧表は、角間右安山岩を石室構築材として使用した古墳及びその可能性の高い古墳についてまとめたものである。

※2. 表中の「古墳総覽」は「藤島古墳総覽」、「上毛陵苑」は「上毛古墳総覽」の略である。

※3. 群馬県内の古墳名、現状、墳形、規模は基本的に「群馬県古墳総覽」によった。

※4. 石材の略称は、舟舟: 角間右安山岩、磐安: 舞石安山岩。自: 自然石(河原石含む)、凝: 凝灰岩、片: 片岩系石材、碌: 碌砾片岩、牛: 牛状砂岩、金: 金山石である。

| 側壁石材 | 奥壁石材 | 石材加工 | 時期 | 上毛鉢窓 | 古墳群 | 備考 | 参考文献 |
|---------------|--------|----------|------------|-------|---------|---------|-------------------|
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀 | — | 四十塚古墳群 | | 71, 90 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半～7世紀 | — | 四十塚古墳群 | | 71, 90 |
| 角安(想定) | — | — | 6世紀後半 | — | 四十塚古墳群 | 埴輪有 | 5, 70, 71, 88, 90 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀後半 | — | 四十塚古墳群 | 埴輪有 | 71, 88, 90 |
| 角安 | 角安 | — | 7世紀前半 | — | 御野古墳群 | | 71, 88 |
| 角安 | 角安(想定) | 削石 | — | — | 上坂山古墳群 | | 71, 91 |
| 角安 | — | — | — | — | 御野古墳群 | | 71, 88 |
| 床面が夢大の角安主体の櫛床 | — | — | 7世紀前半 | — | 木の本古墳群 | | 92 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀前半 | — | 熊塚古墳群 | | 71, 93 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | — | 熊塚古墳群 | | 71, 93 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀後半～末 | — | 熊塚古墳群 | | 71, 93 |
| 角安 | — | 削石 | — | — | 熊塚古墳群 | | 71, 93 |
| 角安 | 縁 | 切石 | 7世紀中葉 | — | 中条古墳群 | 市史跡 | 71, 95 |
| 角安 | 角安 | 4面削石 | — | — | 肥塚古墳群 | | 1, 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 王子古墳群 | | 94 |
| 角安(想定) | 縁 | 削石? | 7世紀前半 | — | 白山古墳群 | | 70, 71 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 7世紀中葉 | — | 酒巻古墳群 | 埴輪有 | 5, 70, 71 |
| 角安 | 角安 | 削石? | 7世紀中葉 | — | 酒巻古墳群 | 埴輪有 | 5, 70, 71 |
| 角安 | 角安 | — | — | — | 酒巻古墳群 | | 71 |
| 角安 | 角安 | 削石 | — | — | 酒巻古墳群 | | 71 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 6世紀末 | — | 酒巻古墳群 | 埴輪有 | 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 6世紀末 | — | 酒巻古墳群 | 埴輪有 | 96 |
| 角安 | — | — | — | — | 酒巻古墳群 | | 71 |
| 自・角安 | 角安 | なし | 6世紀中葉 | — | 酒巻古墳群 | | 71, 97 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 削石? | 6世紀後半 | — | 齊集古墳群 | 埴輪有 | 70 |
| 潤延側壁に角安使用 | 切石 | — | — | 埼玉古墳群 | 埴輪有 | 5, 98 | |
| 角安(想定) | 縁 | — | 6世紀末～7世紀初頭 | — | 若王子古墳群 | | 5, 71 |
| 角安 | 片 | 切石 | 7世紀後半 | — | 若小玉古墳群 | 県史跡 | 70, 71 |
| 角安・瀬・縁 | 角安・瀬・縁 | 切石 | 7世紀中葉～後半 | — | 若小玉古墳群 | 県史跡 | 70, 71, 99 |
| 角安 | 片 | 削石 | 6世紀末 | — | 小針古墳群 | 埴輪有 | 71 |
| 角安 | 縁 | 5面削石 | 7世紀前半 | — | 小松古墳群 | | 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | 7世紀初期 | — | 種足古墳群 | | 71 |
| 角安 | 角安・片 | 5面削石・切石 | 7世紀前半～中葉 | — | 農田古墳群 | 市史跡 | 1, 71, 100 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | 5面削石 | 6世紀末 | — | 稻岡古墳群 | 県史跡、埴輪有 | 5, 70, 71, 101 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 内牧塙内古墳群 | 市史跡 | 70, 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 内牧塙内古墳群 | 市史跡 | 70, 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 内牧塙内古墳群 | 市史跡 | 70, 71 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 内牧塙内古墳群 | 市史跡 | 70, 71 |
| 角安 | 角安 | — | 6世紀末～7世紀初頭 | — | 日沼古墳群 | | 70, 71, 102, 103 |
| 角安 | 角安・縁 | 5面削石 | 7世紀前半 | — | 日沼古墳群 | | 70, 71, 102, 103 |
| 床面に角安使用 | 拳大軸石 | — | 7世紀前半 | — | 日沼古墳群 | | 70, 71, 102, 103 |
| 角安(想定) | 角安(想定) | — | — | — | 日沼古墳群 | 埴輪有 | 70, 71, 102, 103 |
| 角安 | 角安 | 削石 | 6世紀末 | — | 外城古墳群 | | |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀後半 | — | 乙女古墳群 | | 104 |
| 角安 | 角安 | 5面削石 | 7世紀末 | — | — | 県史跡 | |
| 角安(想定) | — | — | 7世紀後半 | — | — | | 105 |
| 角安(想定) | — | — | 7世紀後半 | — | 台古墳群 | | |
| 角安・一部縁片(想定) | 削石 | 7世紀前半～中葉 | — | — | 久膳向原古墳群 | | 106 |
| 角安(想定) | — | — | 7世紀前半～中葉 | — | 久膳向原古墳群 | | 106 |
| 角安・一部縁片(想定) | 削石 | 7世紀前半～中葉 | — | — | 久膳向原古墳群 | | 106 |

角閃石安山岩使用古墳参考文献

- 1 「横穴式古墳の研究」尾崎喜左雄 1966 熊谷弘文館
- 2 「群馬県史」資料編 3 原始古代 3 群馬県 1981
- 3 「群馬歴史研究」11 群馬県 1980
- 4 「群馬県史研究」13 群馬県 1981
- 5 「前方後円墳集成」東北・関東編 神山田出版社 1994
- 6 「群馬県内の横穴式石室Ⅰ（東毛編）」群馬県古墳時代研究会 1998
- 7 「群馬県内の横穴式石室Ⅱ（東毛編）」群馬県古墳時代研究会 1999
- 8 「群馬県内の横穴式石室Ⅲ（中毛編）」群馬県古墳時代研究会 2000
- 9 「群馬県内の横穴式石室IV（袖ヶ浦編）」群馬県古墳時代研究会 2001
- 10 「群馬県内の横穴式石室V（筑波編）」群馬県古墳時代研究会 2004
- 11 「東国古墳時代の研究」右島和夫 1994 梅学生社
- 12 「群馬県の古跡（古墳群）」群馬県教育委員会 1995
- 13 「前橋市史」第1 前橋市 1971
- 14 「金冠塚（山王二子山）古墳調査概要」前橋市教育委員会 1981
- 15 「横須賀群IV」前橋市理謙文化財調査委員会 1992
- 16 「清見・長保遺跡」群馬県理謙文化財調査事業団 1986
- 17 「荒尾北道跡 井今神社古墳群 荒尾青脚遺跡」群馬県教育委員会 1986
- 18 「富士山1号古墳」群馬県教育委員会 1992
- 19 「群馬県古跡大辞典」群馬県理謙文化財調査事業団 1999
- 20 「陣場・庄司古墳群」霞見豆見教育委員会 1991
- 21 「小島田（日木口遺跡）」群馬県理謙文化財調査事業団 1994
- 22 「小原日出路」富士見教育委員会 1998
- 23 「高崎市史」第1巻 高崎市 1969
- 24 「新編高崎市史」資料編 I 原始古代 1 高崎市 1999
- 25 「下佐野跡」地図B(1) 群馬県理謙文化財調査事業団 1986
- 26 「大賴村史」大賴村 1979
- 27 「弓間遺跡」高崎市教育委員会 1979
- 28 「筑前藤原群」高崎市教育委員会 1985
- 29 「和山田天神前遺跡」群馬県理謙文化財調査事業団 1999
- 30 「御賀原古跡古墳群」石室・道場・御賀原 群馬県教育委員会 1999
- 31 「足門石道跡」高崎市教育委員会 2020
- 32 「東村誌」東村 1979
- 33 「本郷町古墳群」伊勢崎市教育委員会 2011
- 34 「伏生1号古墳」祝古墳 大沼上遺跡 伊勢崎市教育委員会 1982
- 35 「福荷古の古墳」伊勢崎市教育委員会 1971
- 36 「清音古墳群2」伊勢崎市教育委員会 2014
- 37 「阿井蛇1号古墳」伊勢崎市教育委員会 2010
- 38 「市内遺跡1」伊勢崎市教育委員会 2004
- 39 「下谷A号古墳」伊勢崎市教育委員会 2017
- 40 「笠遺跡・吉田遺跡」群馬市教育委員会 1985
- 41 「境町古道跡」境町企画調整課 1978
- 42 「境町史」第3巻歴史編 上 境町史編さん委員会 1996
- 43 「赤堀山古墳群」境町企画調整課 1978
- 44 「賛城町遺跡」伊勢崎市教育委員会 1988
- 45 「千木遺跡・下茂木古墳群」伊勢崎市教育委員会 2020
- 46 「今井学校跡」伊勢崎市教育委員会 2021
- 47 「太田市史」通史稿 原始古代 太田市 1996
- 48 「新田町史」2巻資料編（上）新田町 1987
- 49 「理謙文化財発掘調査年報3号」太田市教育委員会 1993
- 50 「測ノ上古墳」前橋市教育委員会 1993
- 51 「半田中里遺跡」渋川市教育委員会 1994
- 52 「吉岡村誌」吉岡村教育委員会 1980
- 53 「小倉庚申塚遺跡」吉岡村教育委員会 1992
- 54 「七日市遺跡・鹿沼古墳・女塚遺跡」吉岡村教育委員会 1986
- 55 「三津屋古墳」吉岡村教育委員会 1996
- 56 「小泉大崩遺跡」玉村町教育委員会 1993
- 57 「川井箱古墳跡」玉村町遺跡調査会 1999
- 58 「小泉大崩遺跡（第2・3次調査）」往来遺跡（第1・2次調査）玉村町教育委員会 2008
- 59 「長良家遺跡」玉村町教育委員会 2006
- 60 「川井・茂木古墳群」玉村町教育委員会 2009
- 61 「社宮鳥古墳・船荷木1・2号古墳」玉村町教育委員会 2020
- 62 「川井・茂木古墳群」玉村町教育委員会 2009
- 63 「板倉町史 考古資料編別巻9」板倉町 1989
- 64 「明和町誌」明和町 1985
- 65 「千代田村誌」千代田村 1975
- 66 「赤岩堂山古墳群丘陵及び石室確認調査報告書」千代田村教育委員会 1999
- 67 「大泉町誌」（下巻）歴史編 大泉町 1983
- 68 「寺光寺付近遺跡」大泉町教育委員会 1988
- 69 「古海塚群古墳群」大泉町教育委員会 2002
- 埼玉県
- 70 「新編埼玉県史 資料編2」原始・古代 佐生・古墳 埼玉県 1982
- 71 「青空文庫」2013 「埼玉県内横穴式石室の事例集成」
「研究記録」第27号（公財）埼玉県理謙文化財調査事業団
- 72 「上里町史」上里町 1992
- 73 「本庄市史」（通史編1）本庄市 1986
- 74 「本庄市史」資料編 本庄市 1976
- 75 「手取山古墳発掘調査報告書」本庄市教育委員会 1978
- 76 「組・小島古墳群発掘調査報告書I～堀場I～9号墳」本庄市教育委員会 1988
- 77 「組・小島古墳群発掘調査報告書II」本庄市教育委員会 1989
- 78 「組・小島古墳群 開拓1号墳」本庄市教育委員会 1997
- 79 「組・小島古墳群一の前古墳」本庄市教育委員会 2001
- 80 「組・小島古墳群一前古墳・道場・内出前・永不地区」本庄市教育委員会 2005
- 81 「組・小島古墳群杉ノ根・屋敷内・三森山・森西・森ノ下地区」本庄市教育委員会 2008
- 82 「組・小島古墳群 堀原屋敷遺跡II」本庄市教育委員会 2009
- 83 「本庄市塚原古墳発掘調査報告書」本庄市教育委員会 1969
- 84 「本庄塚原群発掘調査報告書一御堂坂第1号墳の調査」本庄市教育委員会 2002
- 85 「第五十子古墳群」本庄市教育委員会 2007
- 86 「本庄塚原群発掘調査報告書IV・御堂坂第2号墳の調査」本庄市教育委員会 1990
- 87 「水底遺跡の調査 第二次」国町教育委員会 1977
- 88 「岡崎町史」原始・古代資料編 深谷市教育委員会 2006
- 89 「丹野溫跡V・手取山古墳」深谷市教育委員会 2007
- 90 「四十塚古墳の研究」国町教育委員会 2005
- 91 「川町南部遺跡群I」深谷市教育委員会 1991
- 92 「水の本3号地」深谷市 2009
- 93 「飯塚北II・飯塚古墳群II」朝霞市理謙文化財調査事業団 2006
- 94 「水底古跡」夏井 1977
- 95 「めぐみ」熊谷市教育委員会 1983
- 96 「酒呑古墳群」行田市教育委員会 1988
- 97 「酒呑古2号（2次）・白山愛宕山古墳（1・2次）・白山2号墳」行田市教育委員会 1994
- 98 「出崎玉古墳群総括報告書1」埼玉県教育委員会 2018
- 99 「八幡山古墳石室復原報告書」埼玉県教育委員会 1980
- 100 「吉登古墳の発掘」源郷町教育委員会 1959
- 101 「天王山北遺跡」久喜市教育委員会 2017
- 102 「杉ノ町史」考古資料編 杉ノ町 2003
- 103 青木 宏 2018 「後・終末期集積と集落の展開について
—日吉古墳群と楓野地北遺跡の関係性—」
「研究記録」第32号（公財）埼玉県理謙文化財調査事業団
- 桶木県
- 104 「雷電山古墳石室復原報告書」小山市教育委員会 1983
- 茨城県
- 105 「宿北遺跡・宿東遺跡・寺山遺跡」茨城県教育財団 2014
- 106 「久慈向原古墳群」古河市教育委員会 2020

写真図版



調査前古墳全景（南から）



調査前古墳全景（北から）



石室天井石崩落状況①（南西から）



石室天井石崩落状況②（北東から）



石室壁石崩落状況①（北東から）



石室壁石崩落状況②（北東から）



石室壁石崩落状況③（南西から）



石室壁石崩落状況④（北西から）



玄室全景（南東から）



玄門全景（北東から）



玄室床面半截（南東から）



玄室床砂礫除去状況（北東から）



羨道入口閉塞状況（南から）



羨道全景（北西から）



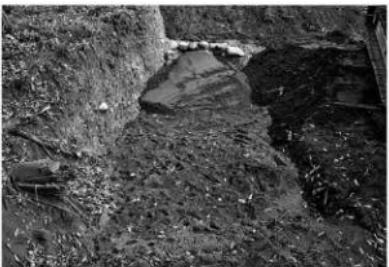
填丘土層断面①（南東から）



填丘土層断面②（南東から）



復旧作業①（南西から）



復旧作業②（南西から）



復旧作業③（南西から）



復旧作業④（東から）



復旧後古墳全景①（南から）



復旧後古墳全景②（北から）



作業風景①（南西から）



作業風景②（南東から）



金-4



金-5



金-3



金-14

金-1



金-15



金-2



金 -6



金 -7



金 -8



金 -9



金 -10



金 -11



金 -12



金 -13



金 -16



金 -17



金 -18



金 -19



金 -20



金 -21



金 -22



金 -23



金 -24



金 -25



金 -26



金 -27

抄 錄

| | |
|---------|-----------------------------|
| フリガナ | ニノミヤハチオウジコフン |
| 書名 | 二之宮八王子古墳 |
| 副題名 | 個人住宅付属物置建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| 編著者名 | 神宮 啓・寺内勝彦 |
| 編集機関 | 前橋市教育委員会事務局文化財保護課 |
| 編集機関所在地 | 〒371-0018 群馬県前橋市總社町三丁目11番地4 |
| 発行年月日 | 2022年3月25日 |

| フリガナ 所収遺跡名 | フリガナ 所在地 | コード | | 位置 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------|----------------|-------|-------|------------|-------------|---------------------------|---------------------|--------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| 二之宮八王子古墳 | 前橋市二之宮町 2545-1 | 10201 | 29E51 | 36° 35'59" | 139° 16'52" | 20170523 ～ 20171128 | 約 300m ² | 個人住宅建築 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|----------|----|------|------|-------------------------------|---|
| 二之宮八王子古墳 | 墳墓 | 古墳時代 | 円墳 | 1基 須恵器大甕 直刀・鉄鏃 金銅製耳環 | 7世紀前半の円墳。石室は利根川中流域に分布する角閃石安山岩を使用した横穴式石室 |

二之宮八王子古墳

個人住宅付属物置建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022年3月18日 印刷

2022年3月25日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会事務局 文化財保護課

前橋市總社町三丁目11番4号